

先導者にして又其督勵者なり

### 敬神

伊弉諾伊弉冊二尊既に天神を信し大國主尊も亦深く天神を信し少彥名命も亦天神を信す命の小艇にて來るも天神の命を爲し之を擧げて共に國土を經營す又大國主尊は兄弟の輕侮を受けたる時も天神を祈禱し其冥助を仰きたると古史に載せあり神武天皇も時を鳥見山に建て皇祖天神を祀り崇神天皇も天神地祇の社を定め幣帛を奉りて之を祀れり儒教に於ても虞舜か旻天に號泣すとは上帝を禱りたるものなり成湯も大旱の時上帝を禱り六事を以て自から責められたは其感應に因て大に雨ふりたりと云ふ孔子は怪、力、乱、神を語らすとあるは門人等が妄りに神に託するを恐れて語らざるものならん門人が神に事ふるを尋ねたるに未だ人に事ふるとの出來ざるに焉ぞ神に事へんと曰はれ神は無しとは曰はす又丘か禱ると久しとあるゆゑ神の崇ふべきとは認め居れり又鬼神の徳たる其盛なる哉之を視て見えす之を聞て聞へす物に躰して遺すへからす天下の人をして齊明盛服して以て祭祀を承けしめ洋々乎として其上に在すか如く其左右に在すか如しと曰へり孟子も惡き人と雖も齊戒沐浴すれば以て上帝を祀るへしと既に天神の崇ふべきとを説けり瓊克拉的も眞神を信し其刑せらるゝ時友人に向ひ鶏を神に献せよと託せり耶蘇教は舊約全書に上帝に事ふべしと天神を崇ふべきとを第一に説かれたり新約全書にもハリサイの人か何なる誠か最も大なるやと問ひたる時耶蘇は爾心を盡し主なる爾の神を愛すへし是れ第一にして大なる誠なりと云へり又人を悦す者の如く眼前の事のみ務めす誠心を以て神を畏れ従へどあり回教に於ては専ら神は惟一なるを説けり佛教に於てもアミダは梵語にて無量無邊又は無限を意味したるものにて阿彌陀經に譯して無量壽と稱し三千大千世界を照覽して遺す所なく萬世不滅と云へは即ち上帝を指したるものなり

因に記す神道にてトヲカミエミタメと唱ふるは遠祖惠み給へとの意なりと耶蘇教にてはアミメン

と唱ひアミメンは「誠に眞實に」と曰ふか如しと佛教にては南無阿彌陀佛と唱ふ南無は救を求むる語なりといへは何れも天神又は祖先に對し救を求むるものなり然るに佛教の一派なる日蓮宗にては南無阿彌陀佛と唱ふるとを忌み南無妙法蓮華經と唱へり妙法蓮華經は梵語にてサダルマフンダリキヤンダランと云ひ即ち經文の名なり此經支那にて譯したるもの六通りあり法華三昧經、薩曇芬陀利經、方等法華經、妙法蓮華經、添品法華經是れなり妙法蓮華經は姚秦の羅什の譯なり日蓮宗の僧侶は南無阿彌陀佛と唱ふるを忌め日蓮は佐渡に在る時彌陀の功德を説き又日蓮宗の本部とも稱す身延山には日蓮の遺訓として「な程のむ量の罪がある者も延に來ればたすけ給ふ」とナムアミダの五字を以て韻をなせしものありと云ふ又日蓮宗の中には多寶佛を信仰する者あり多寶佛は無限を意味したるものなれば即ち阿彌陀の異名なりと云ふ果して然らば日蓮も亦彌陀を頌讚せし者ならん又世人成田の不動尊、芝山の二王、信州の善光寺等を信仰して佛法には靈驗のある者ありといへど佛法に靈驗あるにあらず人の精神の到る所には何なる宗教にても天神之に感じ幸福を降し給ふなり佛法には正法輪身と教令輪身とありて柔和忿怒相分る金剛薩埵は大日の正法輪身にして不動明王は教令輪身なり成田の奥の院には大日を安置し芝山の奥の院には觀世音を安置し善光寺には彌陀勢至觀音の三尊を安置せり眞言宗にては本尊を大日(毘盧遮那即ちベイロシヤナ)といひ淨土宗にては彌陀といひ外道にては梵天と曰ひ自在天と曰ふも其實は一にして彌陀も大日も儒の上帝耶のゴット回のアラ一神道の天御中主尊なり彌陀の勢至觀音に於ける大日の金剛薩埵不動明王に於ける儒の大極の両儀に於けるは天御中主尊の高産靈神產靈に於けるか如し故に不動尊又は仁王を信仰して利益あるは譬くは人あり支配人に向ひ懇請する所あれば其精神に因て主人其心に感して之を救ふが如し故に耶蘇教徒は耶蘇の教に因て救をゴットに求め回教徒はマホメツトの教に因て救をアラ一に求め佛教徒は釋迦の教に固て救を彌陀に求め我が神道を信する者は大

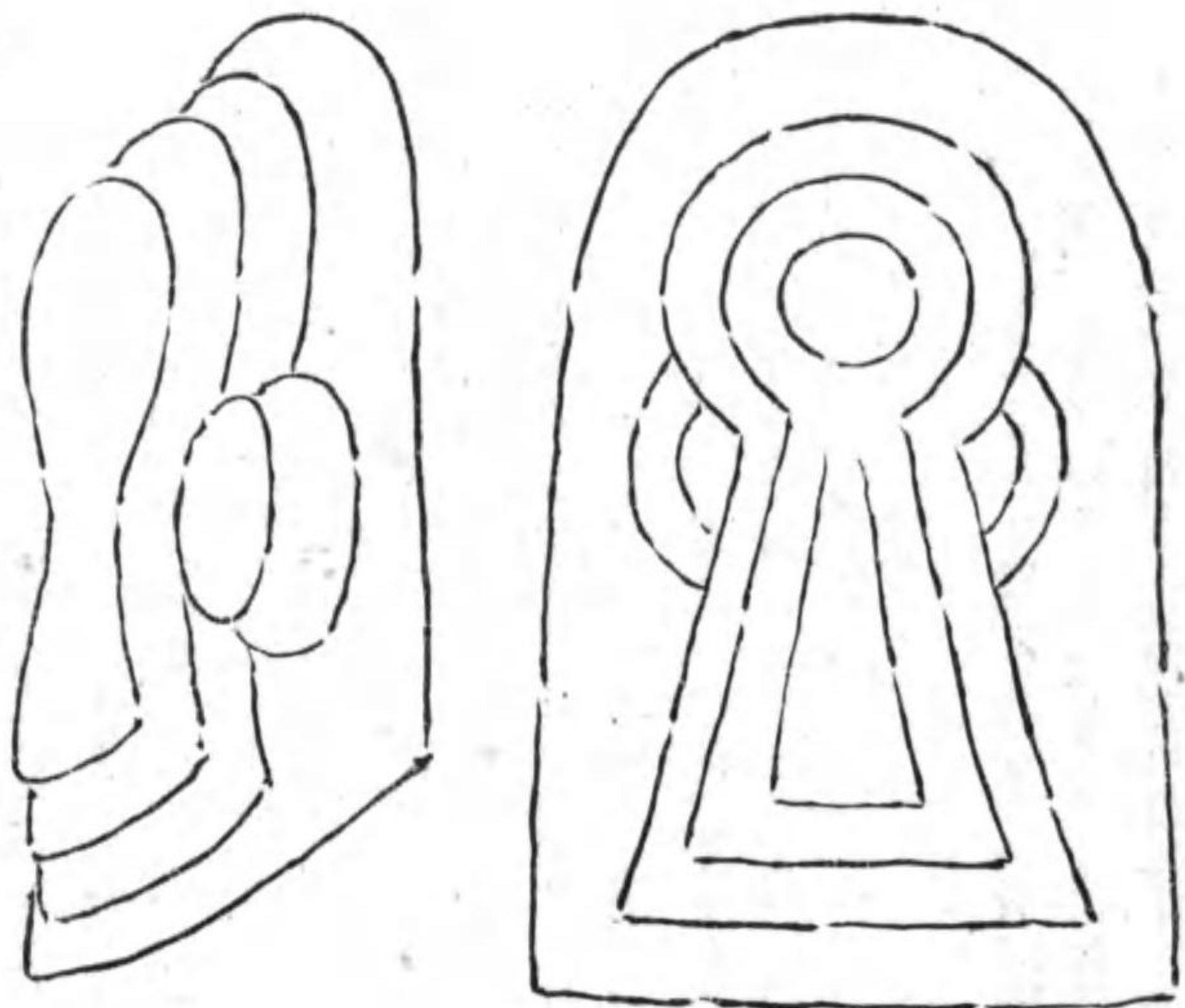
國主尊の教に因て救を天御中主尊に求むべし其名稱は異なるも其實は一なれば名稱の異なるを以て他を誹らすして各々信仰を爲すべきものなり

西村茂樹曰く國民皆敬神尊王の心堅固なる時は日本國は百万年も大丈夫なり若し敬神尊王の心薄くなる時は日本國は甚だ心配なものなり日本國の安全堅固なるも危急存亡となるも皆國人の敬神尊王の心の厚きと薄きとに因ることなり忠義なる日本の國民よ夢寐の間も敬神尊王の心を取失ふこと勿れ

前田慧雲曰く龍樹菩薩の著述せる十二禮は阿彌陀佛の徳を讚述したる偈頌なるか既に十住論中にも易行品ありて彌陀の法門を説き又智度論中にも處々に彌陀に説及したるものあれば龍樹菩薩も亦馬鳴菩薩と同一實行方面に於ては淨土教を唱へたると知るへし此の如く龍樹菩薩は諸法實相説き眞如緣起論も述へ密教も淨土教も皆之を唱へたれども最も主として多く説きたるは諸法實相論なり(中略)淨土往生はもと大衆部即ち中天竺佛教の思想にして兜率往生は上座部即ち北天竺佛教の思想なり故に中天竺佛教者は概して皆淨土往生の思想を有し淨土教を唱ふるものゝ如し世親菩薩は北天竺佛教を唱ふると共に又中天竺佛教をも宣揚したる人なれば此人にして馬鳴龍樹の先蹤を追ふて無量壽經優提婆舍の著述あるは固より怪むに足らざるなり思ふに無量壽經優提婆舍は十地經論と其軌轍を同ふするものにして淵源は華嚴經に在り

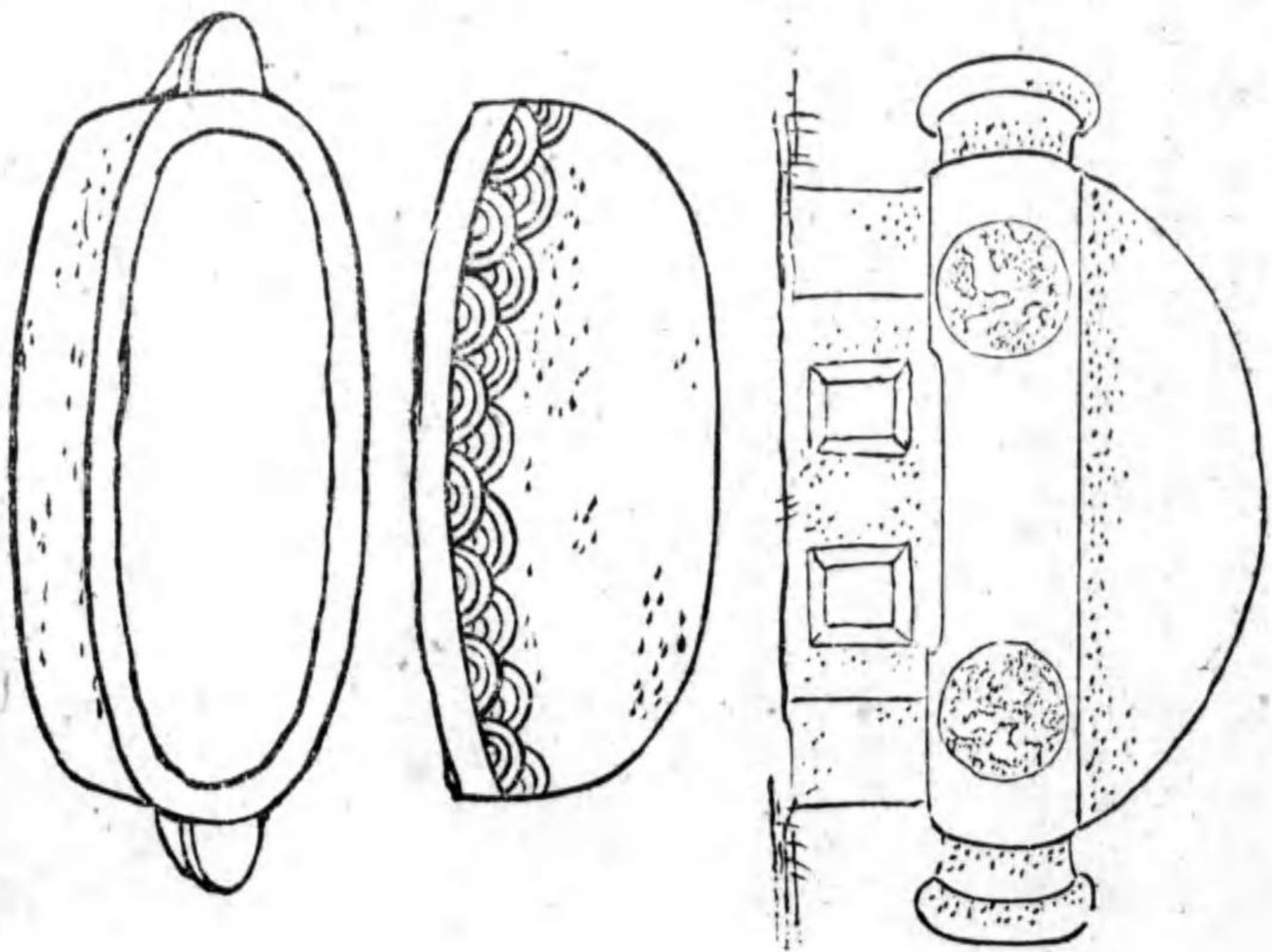
### 葬祭

神道は最も葬祭を重んじ上古は葬式の時に喪屋を建て岐佐理持、掃持、御食人、碓女、哭女、等の役を設け高貴の人は石棺若くは陶棺を用ひ種々の物品を整へて鄭重に之を葬り且歳時其靈魂を祭りて之を慰む伊勢大神宮出雲大社の祭典の如きは其最も重なるものなり儒道に於ても亦葬祭を重んじ孔子は孟懿子の孝を問ふに答へて生るに之に事ふるに禮を以てし死すれば之を葬るに禮を以てし之を祭



右ハ越前國足羽山より掘出したる石棺

右ハ和泉國百舌野の古墳より掘出したる石棺の前面



右ハ古代陵墓築設の圖

るに禮を以てすと云へり又亡靈に水を薦むるとは神儒佛共皆同一にして儒にては左傳卷一に水を鬼神に薦むるとを載せ佛教にては六種供養の第一を闕伽といひ闕伽とは梵語にして翻して水と云ふ神道にては日本紀卷十六に死者に水を薦むるとあるを載せあり又神儒佛何れも元は自葬にして僧侶の手を経たるものにあらざりしを僧侶が其教を弘むる爲め死者の家に到り之を慰め且屍を収めて之を葬りしより遂に僧侶の職業の如く爲りしものなり

熊澤伯繼曰く經文の内には慈悲忍辱の心を專と説き慈悲心より無縁人の尸などの道路にすたりて葬らざるを憐みて葬る心はあらんすれども一切經文の内は今時の出家沙門の如く人の死せるをみては己の業とし葬禮を營み若し又坊主に任せず葬る者あれば地獄に入とおとしめ愚人を誑かし或は銘々壇那とたて、同宗ながら我満をかまへ壇法死すれば其位牌を我々の寺に納め人の往來をもとめて渡世の營みとする事一字一句もなきなり元來葬禮、祭禮、の事は聖人の至理を以てなし給ふとにて釋迦の經文の中になき事なるを梁の竺潜といへる出家始めて人を葬り漸く出家の業となり儒者の行ふ法式の中を竊みて其禮を損益して己か家の法となせり若し釋迦の靈神宇宙に滅する事なくは竺潜法師が爲し始むる事末流末世の營みとなりゆく事共佛法の天理にそむくよりおこることを知て臍を噬の悔み有るべし

### 尙武

伊弉諾尊は天沼矛を以て八洲六島を治め大日靈尊は皇孫に叢雲劔を賜ひ大國主尊は一名を八千矛尊と云つて廣矛を以て國土を平定し孔子は仁者は必ず勇ありと曰はれ釋迦は武藝に達し殊に弓術を能くしたるとは諸經に散見す又釋迦は諸比丘に向ひ道を學ぶ者は譬へは一人と萬人と戰ふ爲め鎧を着て門を出て或は怯せ或は半路にて退き或は格闘して死し或は勝を得て還るか如し沙門の道を學ぶは堅く其志を持し精進勇銳前境を畏れず衆魔を破滅して道果を得べしと説かれたるも耶蘇か十字架に

掛けらるゝも敢て驚かす其門人使徒等が耶蘇の教を奉して或は颶風の爲め船を覆され或は罽圖に繋がるも志を變ずるとなく其教を布きたるもマホメットの右に劔を提げ左にコーランを捧げて教を布きたるも亦皆武勇なり

固に記す孫武の兵を論するや之を経すに五事を以てす一を道と曰ひ二を天と曰ひ三を地と曰ひ四を將と曰ひ五を法と曰ふ道とは民をして上と意を同ふし之と與に死すべく之を共に生くべくして危きを畏れさらしむるものなりと云へり吳起の兵を論するや昔の國家を圖る者は必ず先づ百姓を教へて萬民を親しむと云へり孟軻の兵を論するや天の時は地の利に如かず地の利は人の和に如かずと云へり此道と云ひ親と云ひ和と云ふも皆徳にして宗教に屬するものなり歐米各國に於て軍隊に布教使を置くは以なきにあらず

山崎嘉曰く八千矛は元帥の率ゆる兵數にして大國主を八千矛の尊と曰ふは元帥の尊と曰ふか如し徳川齋昭曰く文武の道は一致と存し候士たる者不學文旨にては相濟まざる事と存し候我等淺學にて古今に暗けれども幼きより神聖の道を學ひつらゝ思ふに君臣父子の大倫は勿論祭祀を崇み本に報ゆる道より勇武を尙み耻を知る義に至るまで皆神代の昔より備りたる事にて忠孝文武など云ふ文字こそなけれ其道はまさしく神國の大道と存し候

千家尊福曰く大國主神の邪神を掃平し人民繁殖の道を開き給へるも少數者の爲に多數人民の不幸を受けるを救ひ給ふものなれば神道の擴張に力を盡す者は人民の權利を伸ふるに障礙するものを除き愛民の神慮を遂げん事を勉めざるべからず

津田真道曰く我帝國は神祖以來尙武風を爲し人々勇氣を貴ひ其性を稱して大和魂と曰へり是神功皇后の一擧して三韓を征服せし所以なり然るに中古隋唐に通ずるに及びて其文華を喜ひ却て尙武の國風を輕むするに至りたり是其終に三韓を失ひし所以なり爾後朝威振はず竟に政權武人の手に

歸したり是自然の勢なり而して武人専ら勇氣を養育せり是曾て北條氏の元冠を西海に塵殺し豊臣氏の一時朝鮮を威嚇せし所以なり而して比年清國を征して荐りに戦捷を重ね國威を各國に宣揚せし原因種々ありと雖も主として我神武なる國風即ち大和魂の致す所なるとは則疑ふべからず南摩綱紀曰く我大日本國は皇祖皇宗以來武を以て國を建て給ひ國名を細才千足の國と唱ひ人皇第一の天皇を神武と稱し奉り爾後列聖皆武を尙ひ併せて文道をも崇ひ給ふ三種の神器の如きも鏡は智に象り璽は仁に象りて文なり劍は武なり且つ古昔は祭政一致文武岐を分たす其内にも尤も武を重し給ひしを以て下亦之に感化風靡して俗を爲し大にしては國を治め小にしては一家一身を齊脩する皆此に由らざるはなし降て舊幕府徳川氏の時に至ては武士道と唱ふる一種の道ありて上下貴賤之を以て人間最大至重のものせり故に幕府を始め三百諸侯の政法制度皆武に基きて之を定め諸藩の學校にても大抵は文武兩道を兼ね學ひしなり蓋し文武は猶ほ車の兩輪鳥の兩翼あるか如し人只文道のみを知りて武道を知らざれば氣象柔軟身体孱弱になりて活潑進取に乏く文道知らざれば氣象兇勵行爲暴悍になりて沈着靜寧を失ふ故に文武を兼修せざるべからざること猶ほ車の隻輪にては行くべからず鳥の片翼にては飛ぶこと能はざるが如く必ず相資け相待ちて始めて大なる功用を成すことを得へし

西村茂樹曰く男子は言ふに及はず女子とても尙武の心掛專要なるへし是れ迄は女子は陸海軍の組織、師團の兵數、兵器の精粗、軍艦の構造等は夫は之を知らざりしが此後は是等の事も能く研究し折々は陸軍の操練をも見物し軍艦に入りて大砲の音をも聞く様にありたきものなり

増田于信曰く大己貴尊最も武畧あり廣矛を提けて凶徒を征服し其様出雲を本據として今の山陰山陽より北陸東山へかけて悉く其治下に隸せり因て稱して大國主神といひ又八千矛神といひ又國作大神ともいへり其威風今の朝鮮迄も及び新羅の天日槍等歸化せり日本紀には天日槍は垂仁天皇の

朝に歸化したる由載せられたる播磨風土記には神代の事とせり

### 美育

神道は節儉を尙ふと云ふも度を過くれは野鄙に陥ゆるを以て天照太神は美育の道を示し鏡を造らしめて容貌を照し句玉を造らしめて容貌に裝飾を加へ自から工女を督して神衣を織らしめたり又此時既に衣服を各種の色に染めたるは何れも其威儀を正ふする爲なり儒教も儉を尙ひ侈を戒をると云ふも孔子は質(飾なきもの)か文(飾)に勝つときは野鄙に陥り文か質に勝つときは史(飾過ぎる)となる文質彬彬即ち其宜きを得たるものか君子なりと云へり又君子は其衣冠を正して其瞻視を尊くし又色は温を思ひ貌は恭を思ふと云へり

川田剛曰く世人美術品を贅澤物と思ふは誤りにて其國の文化を知るには最も善き標本なり

### 自國と他國

菅公か神國一世無窮之玄妙云々又和魂漢才云々と曰はれたるは深く神道を信して我國民は我國を愛し然る後に他國に及ふべきことを示したるものなり公は唐に留學し孔孟の道を學ひたるに拘はらず當時の人が儒道に心酔するを慨し斷然遣唐使を廢せんとを奏請せり孔子も己の親を愛さずして他人の親を愛するを悖徳と云ふ己の親を敬せずして他人の親を敬するを悖禮と云ふと曰はれ又物に本末あり事に終始あり先後する處を知らば即ち道に近しと曰はれたるも老子か千里の行は足下よりすと曰はれたるも廣く解釋するときは自國を愛して後に他國に及ふの義なり耶蘇も何れの國人をも愛すれど先づ自國の者を愛し後に他國の者に及ぼし只偏頗の誤りに陥らすと基督の傳記に見へたり

内藤耻叟曰く人各其國を國とし其家を家とし國には其君を尊奉し家には其父を愛敬す至る所として安堵快樂ならざるはなし何ぞ必しも世界萬國を同視して尊卑を忘れ内外を乱り我子は他人の爲めに我父を放逐し我妻は他夫を愛昵して而後に心に快しとせんや是れ余が尊内卑外は天地の公道

なりと云ふ所以なり

井上圓了曰く一人と一家と一國との三者各密切の關係を有するを知らは其二者の間に平等差等の關係あるを知らざるへからす凡そ社會を組織せる各人は平等同權なりと云ふも是れ唯表面の事のみ若し其裏面に入れば差等異權の存するを知るべし縦令は社會の階級を破壊し來りて上下の區別を一拂し去るに至らば平等同權の眞理に達するものゝ如しと雖も人には賢愚強弱の別なき能はず老少男女の別亦自から存して此數種の人民盡く同一の事業に就く能はず必ずや其性質と才力とに相應する社會の地位を占有するに至らん然る時は必ず差等異權を生ぜざるを得ず是れ平等と差等と相離れざる所以にして平等の中に自から差等ある所以なり而して平等に偏するも差等に偏するも共に眞理にあらずして眞理は此二者の中道にありと知るへし故に人の一家に對し一國に對するも此二様相離れざる關係あるを忘るへからす自己と他人とを同視するは平等の見なり自己と他人とを別視するは差等の見なり自家と他家とを同視し自國と他國とを同視するは皆平等の見にして之を別視するは差等の見なり自己を愛して他人を忘るゝは差等に偏するなり他人を愛して自己を忘るゝは平等に偏するなり自己を愛しなから其裏面に他人の愛すへきを忘れず他人を愛しなから其裏面に自己の愛すへきを忘れざるは所謂其二者の中道なり而して此間に先後輕重の順序あるを記せざるへからす我に父母あり他人にも父母あり共に父母たるに於ては平等なるも其間に我と他人との差等ある以上は我父母を先にし他人の父母を後にせざるへからす我人民に君主あり他の人民に君主あり共に君主たるに於ては平等なるも我と他との差等ある以上は我君主を重とし他の君主を輕とせざるへからす是れ所謂平等差等の中道なり此中道に本きて一家及一國の人の成立するを見るなり此平等差等の關係は又之を國と國との間に適用し來りて國際の關係を示すとを得へし例へは自國を愛するを知りて他國を忘れ其甚きに至りては平常無事の日にありて他

國を敵視し或は之を輕賤して禽獸視するか如きは差等の見に偏するものなり若し之に反して自國と他國とを同一視し甚しきに至ては自國より他國を尊重するか如きは平等の見に偏するものなり故に平常の交際上にありては自國と他國と互に友情を以て相親み一朝競争するに當ては自國を助けて他國を排せざるへからす是れ所謂平等差等の中道なり然り而して時弊を矯正するに當ては或は平等に重を置き或は差等に重を置かざるへからす即ち時弊差等に偏すれば之を矯正するに平等を用ひ時弊平等に偏すれば之を矯正するに差等を取らざるへからす例へは一國一社會にありて上下の懸隔甚しく從て壓制の極端に走りたる時は平等同權説を唱へて其弊を正さるへからす又同權主義其正道を失ふて財産平均論の行はるゝに至ては差等異權説を唱へて其害を防かざるへからざるか如し

### 農工商と漁獵

管公の記する所に依れば大國主尊は民に農工商を勸め且醫を弘め又其子事代主命をして民に漁魚蠶鳥の業を授けしむとあり農工績織の事は天照太神既に其道を開き民に衣食住を授け給へしと古史に載せあれば尊は之に改良を施したるものならん堯舜も后稷をして民に稼穡を授け五穀を樹藝す五穀熟して民人の育するを待ち契をして人倫即ち父子の親君臣の義夫婦の別長幼の序朋友の信を教へしむ孔子も嘗て農商を司とる職に就きし時牛羊を蕃息せしめ量目を平にせり又衛に適く時其門人冉有か從て赴き既に多くの人民あり又何を加へんといひたれば孔子は之を富さんといひ既に富たれば又何を加へんといへたれば孔子は之に教へんといへり孟子も梁の惠王や齊の宣王に富國強兵の基は農桑牧畜を勸めて之に申ぬるに教育を以てする事を説きたりマホメットも隊商を率てシリヤに赴き貿易を爲し商業頗る好果を得たりと佛教に於ても法華經に一切の治生産業は實相と違背せずとあるは即ち勸業の事なり

因に記す兵法家の經典とも稱す六韜に載するに太公望文王の間に對し大農大工大商を謂て三寶と爲し農其郷に一なるときは穀足る工其郷に一なるときは器たる商其郷に一なるときは貨足る三寶完きときは國安しと又武王の間に對し天下安定國家無事の日は戰攻守禦の具は盡く人事に在り未耨は其行馬蒞藜なり馬牛車輿は其營壘蔽櫓なり鋤耨の具は其矛戟なり蓑蓐箠笠は其甲冑干楯なり鏹鉞斧鋸杵臼は其城を攻むる器なり牛馬は糧用を轉輸する所以なり鶏犬は其伺候なり婦人の織紵は其旌旗なり丈夫の壤を平くるは其城を攻むるなり春、草棘を鋤るは其車騎を戰はすなり夏、田疇を耨るは其歩兵を戰はすなり秋、禾薪を刈るは其糧食の儲備なり冬、倉廩に實つるは其堅く守るなり田里相伍するは其約束符信なり里に吏官あり長あるは其將帥なり里に周垣ありて相過くることを得ざるは其隊分なり粟を輸し芻を收むるは其廩庫なり春秋に城郭を治め溝渠を修むるは其塹壘なり故に兵を用ふるの具は盡く人事に在り善く國を爲むる者は人事に取る故に必ず其六畜を遂んし其田野を開き其處所を安せしむ丈夫田を治むるに畝數あり婦人織紵に尺度あり是れ國を富し兵を強くするの道なりとあり又黃石公の三畧に耕桑を務めて其時を奪はず賦歛を薄くして其財を匿くせず徭役を罕にして民をして勞せ使めざるときは國富みて家娛しむ然る後に士を選んて以て之を司牧す夫れ所謂士とは英雄なり故に曰く其英雄を羅るときは敵國窮す英雄は國の幹なり庶民は國の本なり其幹を得て其本を收むるときは政行はれて怨みなしとあるを見れば兵法家も農工商即ち殖産興業の先きにすべきとを説くものなり

會澤安曰く吾輩人民食ふ所の米は天祖の天狹田長田の稻の餘りにして衣る所の服は齋服殿の神衣の餘りなればゆめ疎かにすべからず

井上圓了曰く我國の習慣として官吏を重んじて商工を賤しむ風あれども社會公益上より之を觀れば商工も農業も國家富強の本なれば決して賤しむべき道理あるへからず學者や官吏は少數にて足

れども農工商は人生必需の衣食住を供給する者なれば多人數之に従事するにあらずんば其需用を満たすべからず

高木敏雄曰く風土記には所造天下一大神と稱すまた其御魂に對しては倭大物主櫛瓊玉命と稱し或は單に大物主神とも稱すまた其祭祀の地に因て三輪大神、三諸大神とも稱し播磨にては伊和大神とも稱す或は單に大神と稱するとあり日本神話の神格中此「大神」の稱號を有する大國主神が如何はかり重要な位地を有するかを示す更に此神の名稱の多數なる事此もまた此神の有名の神にして同時に有力の神なる事を證するものなり後世に於ては大黒の名稱の下に七福神の一として結ぶの神の名の下に結縁の守神として國民の信仰今に少しも衰へず大和の三輪山一名三諸山の祭神は大物主神なり此社は諸神社中に最も舊きものにして延喜の制既に名神大社に列し新年、日次、相嘗新嘗の官幣に預りしとは延喜式の神名并に祝詞の部を見ても明なり今日に於ても尙官幣大社たり然れども此神の有力なる神格なる事を證せんか爲には出雲神社の名を擧ぐるのみにて十分なるべし全國の神社中大神の稱號を有するもの伊勢、熊野、杵築の數社に過ぎず出雲、杵築大社か延喜の制既に名神大社に列し現今官幣大社たるは曰ふ迄もなく其社の勸建實に神代に溯るを見る天日隅宮として杵築の大社築造の莊麗なる記事は記紀の神代卷を始として風土記其他の文書に詳なり其他現今官幣社として此の神を祭るもの大和に大和神社あり武藏に氷川神社あり能登に氣多神社あり讃岐に金毘羅宮あり常陸に大洗磯前神社あり三河に砥鹿神社あり伯耆に大神山神社あり日向に都農神社あり石狩に札幌神社あり此外丹後の宮津社播磨の伊和社、美作の中山社、越中の高瀬社、安房の小鷹社、越前の高木社、近江の建部社、佐々木社、山城の五條天神、越中の天神、羽前の田河社、等何れも大己貴神を祀る固より諸國神社の數は神話に於ける此神の勢力を定むる唯一の標準にはあらずとするも以上の事實は或點に於ては少くも重要な標準の一つたるを失はざるべし

岡本監輔曰く平田篤胤嘗て大國主神の時の開化を證すに扶桑畧記を引て曰く天智天皇七年近江國志賀郡に崇福寺を建つ地を掘りて寶鐸一口を得たり高さ五尺五寸元明天皇和銅六年に大和國宇太郡浪坂郷の人太初位上村東人銅鐸を長岡の野地に得て之を献す高さ三尺口徑一尺音は律呂に協ふ嵯峨清和の兩朝に亦銅鐸を獲る事あり寛政中に及ひ亦之を播摩及ひ參河に獲たり高さ三尺餘其他諸處に出す所極めて多し率皆數千歳の物にして人代の有る所に非ず殷周以後の製に非ず則其大國主神の時に出るや疑を容る可からず蓋し天神の鏡を造るに鐵を用て之を磨く其曲玉も亦美石を用て之を磨く大國主神の時は其鏡に白銅を和し八花形等を鑄り水銀を貼し光を生せしむ其曲玉も亦多く煉玉を用ふる者に似たり銀銅皆外國に出て而して國人之を用ふ殆ど素蓋鳴尊の教に由るなり其説易ふ可からざる者に似たり

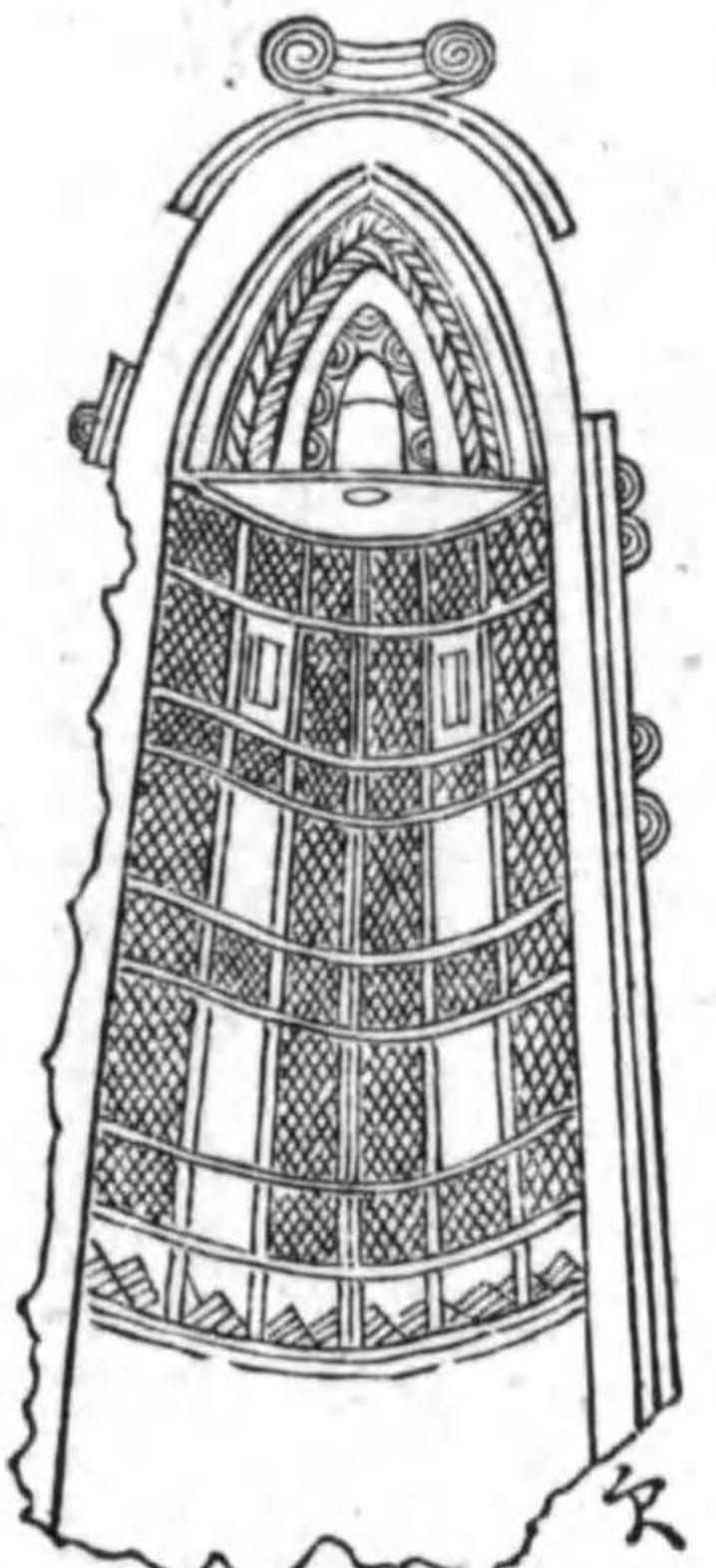
福羽美靜曰く扶桑畧記天智天皇七年の所に正月十七日於近江國志賀郡一建崇福寺一始令平地掘出奇異寶鐸一口一高五尺五寸又掘出奇好白石一長五寸夜放光明云云と云へる事あり元明天皇紀に和銅六年七月丁卯大和國宇太郡浪坂郷人太初位上村東人得銅鐸於長岡一而献之高三尺口徑一尺其制異、常音協律呂一勅有司一藏之嵯峨天皇紀に弘仁十二年五月丙午播摩國有入掘地獲一銅鐸高三尺八寸口徑一尺二寸清和天皇紀に貞觀二年八月十四日辛卯三河國獻銅鐸一高三尺四寸徑一尺四寸於濕美郡村松山中獲之或曰是阿育王之寶鐸也なども所見たり或説に今現に大和國吉野山に豊臣太閤の手書を添たる銅鐸ありて天の半ちやくと呼の右中の一つならんといへれど此は信られず其は其謂ゆる天の半ちやくの圖を見るに右の記録もともに云ふとは其尺寸異なればなり豊臣太閤の手書の文に「武ゆうたつし手から先の若ものとは汝が事いよく武かうをつくすへし當座のほうびとして天の半ちやくあとうるもの也八月日邑下判官源藏朝」とありとそ半ちやくとは寶鐸の轉訛なるべし又上野國綠野郡落合村なる七輿山宗永寺境内の古墳より掘獲たりと



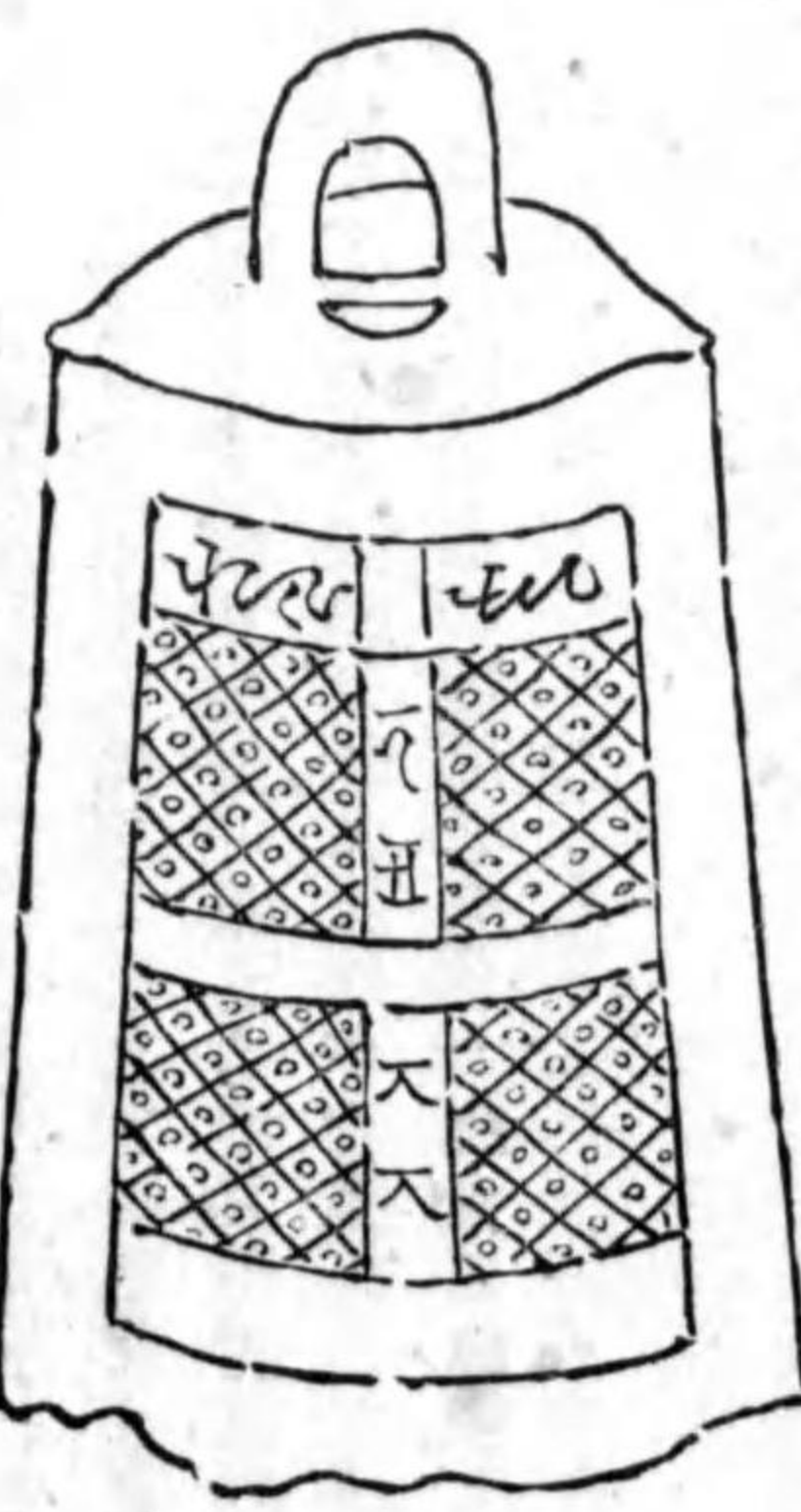
右ハ谷文晁所藏の銅鐸



右ハ對馬國住吉神社神寶の曲玉



右ハ大和國吉野山にある銅鐸



右ハ上野國綠野郡落合村より掘出したる銅鐸

云ふ此は上件の鐸にもは相似ざる古物なるか其鑄付たる文様古文字に髣髴たり斯て此器のみは例の穴なきは若くは異品なるか又谷文晁の所藏せる古銅鐸は正に上の鐸と同じ類にて三穴あり高さ一尺一寸にして人又牛馬龜鳥などの略形を鑄付たり文字又物の形を畫くこと甚古く有りしこと是等にも知るべし右の古器とも古く鐸と稱ひ來れる故に今も姑くさは謂ふなれど神典には奴豆また佐那伎などに此字を用ひたり其は其形の相類たる故に聞えたり上件の器ともは其形區にして内に振玉を付く可き所も無れば神典なる奴豆佐那伎などの如く振鳴す物には非ず古書にたえて思ひ合すべき事なければ其名も亦知る可き由なし然れば強て屋代翁の匾鐘と名けられたるに従ふより外なくなむ

績織と裁縫

大和國春日社の大國殿に大國主尊御夫婦の像を安置せり尊は右手に槌を持ち左手に裏布を持てり夫人は右手に槌を持ち頭に盥を頂き左手を以て之を支へ居れり此槌は尊の槌と異なり砧を打つものにて盥は布を調す器具なれば尊は既に農工商を勸め且其子事代主命をして民に漁獵を授けしめたるものなれば其夫人をして婦女に績織と裁縫の業を授けしめ此像は即ち布を調す所を型とりたるものならん

栗田寛曰く麻績連は長白羽命の裔にして麻績氏の人を率ゐて麻を殖えて青和幣を作り敷和の服を作ることを掌りしものなり麻績とは麻を績むことにて麻を績みつむきて機を織る神なり其麻を以て織りしを昔は荒衣の服と云ひ又ウツハタともいへり常陸の久慈郡に白羽神社あり白羽村にあるは此神の鎮坐の故なり其近地幡村に長幡部神社あり其社にて織る幡をウツハタといふ延喜時代まで調物に納めたり此幡は今のメリヤスの襦袢と云ふものゝ如く下着などにして頭から被る様にして着る所の物なり常陸風土記には其所織の物自ら衣裳となりて更に裁縫するとなし之を内幡と云ふと

いへるにて知るべし太古の神々の巧藝既に此に至りしこと眞に妙といふべし  
西村茂樹曰く世間の婦人の多く勞力を以て賤しむべき事と思へるは第一の心得違なり勞力は人間か此世にありて爲すべき要務にして國家の富強といふも皆國民か勞力するによりて成就する事なり只上等社會の人か怠惰に日を送り衣服飲食皆給を他人に仰き婦人の務を知らざる程賤しむべきはなし西國立志編に「手足は何程汚れたりとも心の清潔に害なし」とあり中等以上の婦人能く此義を知るべし

醫藥と禁厭と湯治

大國主尊は醫藥を製して民の疾病を救ひ又禁厭を以て疾病を治したるとは古史に見えしか温泉に浴せしめ疾病を治するとも民に示したり瑣克拉的も其弟子ハルミデスの頭痛を愈すに藥には一種の樹葉を與へ且加ふるに禁厭を以てしたり其禁厭は十分己を信せしめて然る後に施したるものにして即ち精神療法なりと此事プラトンの文集に見えたり耶蘇も到る處に於て癩病、眼病、聾者等の患者を救ひたるとは新約全書中に多く載せあり佛教に於ても梵網經に佛子たる者は一切疾病の人を見は應に其人を看護すると佛を供養するか如くにすへし八福田中に看病は第一なりとあり八福田とは一に佛二に聖人、三に和上、四に阿闍梨、五に衆僧、六に父、七に母、八に病人を曰ふなり儒道に於ても論語に子の填む所は齋、戰、疾とありて祭祀と戰爭と病氣の事には孔子も殊に注意し又喪ある者の側にて食する時は飽かすとあり孟子は老て妻なきを鰥と曰ひ老て夫なきを寡と曰ひ老て子なきを獨と曰ふ幼にして父なきを孤と曰ふ此四者は天下の窮民にして告ぐるとなき者なれば文王は政を發し仁を施すに必ず斯四者を先にすと曰へり此四者は殆ど病者と均しき不孝の者なればなり

高木敏雄曰く出雲風土記にも其外にも大國主神に關する話説に稻種の見ゆる場合少からず依て思ふに大國主神は農業保護神の一として古代より尊崇せられしならむ或は農業保護と云ふよりは蟲



害禁厭の法と云はむ方適當なるべし稻田の蟲害驅除の禁厭の法に關しては古語拾遺に昔在<sub>二</sub>神代<sub>一</sub>大地主神營<sub>レ</sub>田之<sub>レ</sub>日云云と此に關聯して大國主神の醫療禁厭の法の發明に關しては同く古語拾遺に大己貴神與<sub>二</sub>少彥名神<sub>一</sub>共戮<sub>レ</sub>力<sub>一</sub>心經<sub>二</sub>營天下<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>蒼生畜產<sub>一</sub>定<sub>二</sub>療病之方<sub>一</sub>又爲<sub>レ</sub>攘<sub>二</sub>鳥獸昆蟲<sub>一</sub>災<sub>一</sub>定<sub>二</sub>禁厭之法<sub>一</sub>百姓至<sub>レ</sub>今咸蒙<sub>二</sub>恩賴<sub>一</sub>皆有<sub>二</sub>効驗<sub>一</sub>也とあり又大國主神の最後の濟民の事業として猶温泉開場の事を擧げざるへからず鎌倉實記に准后親房記引<sub>二</sub>伊豆國風土記<sub>一</sub>曰<sub>レ</sub>稽<sub>二</sub>溫泉<sub>一</sub>玄古天孫未<sub>レ</sub>降也大己貴與<sub>二</sub>少彥名<sub>一</sub>我秋津洲憫<sub>二</sub>民天折<sub>一</sub>始製<sub>二</sub>禁藥湯泉之術<sub>一</sub>伊津神湯又其數而箱根之元湯是也と

又曰く日向の都農神社に於ては大國主神は醫療の神として吐濃大明神の名の下に祭祀尊崇を受けたり吐濃大明神癰瘡をまじなふに必いやし給ふとかや彼の國人は明神の方に向て頌文して云吾常以<sub>レ</sub>汝爲<sub>レ</sub>高今者此物高<sub>二</sub>於汝<sub>一</sub>若有<sub>二</sub>懷憤<sub>一</sub>宜<sub>レ</sub>令<sub>二</sub>平却<sub>一</sub>と唱へて杵と云ふものをして朝ごとに二度あつると三日すれば癰瘡いゆと云へり

### 己の欲する所を人に施す

大國主尊は既に業を勸めて萬民に生活の道を授け又醫藥湯治の方を弘めて萬民の疾病を救ひたるは即ち幸福を與へたるものにて耶蘇か己の欲する所を人に施せと説きたる金言を實行の上に施したるものなり孔子は此金言を反面的に説き己が欲せざる所は人に施す勿れと曰へり佛教に於ても涅槃經に一切の衆生は皆殺さる<sub>レ</sub>刀と撃たる<sub>レ</sub>杖を畏れ壽命を愛せざる者なければ己の心を以て他の心を推量り他人を殺す勿れ撃つとを行ふ勿れとありマホメットの十二戒にも第四に親族、乞食、旅人には彼等に與ふべき者を與へよ又コーラン第二章に人に施與するに陽なるは善し隱徳は尙善にして神は必ず之に報すとあり

新島襄曰く善を人に施すといふとに就ては何れの宗教に於ても大眼目とする所なり

レツク曰く孔夫子の言語中殊に注意すべきは夫子が基督の生前五百年に於て黄金律を反面的に發言せしにあり而して是れ全く人類心性の組織を研究するに由りて推論せしものなり其言に曰く己の欲せざる所を人に施すこと勿れと

### 分を守る

大國主尊の像に就き管公の記する所に依れば直身正視して上を仰かす下を臨まさるは高きに媚ひす卑きを侮せずして分を守る者を表したるものなりと分を守るとは即ち中を執るものなり孔子が上位に在て下を陵かす下位に在て上を援かす己を正ふして人に求めず上天を怨みず下人を咎めすと曰はれたるも釋迦が勢ありて臨まさるは難しと曰はれたるも此意なり又佛教の六度集經に寧ろ道を守り貧賤にして死するとも道になき事を爲して富貴と爲りて生きると勿れとあり

徳川家康曰く人は五字と七字を守れば足る五字とはウイヲミナ(上を見る勿れの意)七字とはミノホトヲシレ(身の分限を知れの意)是れは大黒天の教なりと天海に聞けり

### 一家和樂

大國主尊は既に修身の事と齊家の事とを示し齊家は即ち一家親族の和合を專一と爲すものなれば顔色怡々たるは其表なり儒道に於て孟子は詩云刑<sub>二</sub>于寡妻<sub>一</sub>至<sub>二</sub>于兄弟<sub>一</sub>以御<sub>二</sub>于家邦<sub>一</sub>言ふは斯心を擧げて諸を彼に加ふる已故に恩を推せば以て四海を保するに足る恩を推さ<sub>レ</sub>れば以て妻子を保する無しと曰ひ又人恒に言へるあり皆曰く天下國家と天下の本は國にあり國の本は家に在り家の本は身に在りといへり佛教に於ても無量壽經に父子、兄弟、夫婦は勿論家の中外にある親族は相互に敬ひ愛しみて憎み嫉むとなく我に有て彼に無き者は相互に融通して貪り惜むとなく言語顔色を常に柔和にして相互に意に違ひ戻るとを爲す勿れとありマホメットも教を弘むる時第一に其妻カデヂヤに施し次に家僕ゼードに施し次に甥アリーに施して以て万民に及べり

成島弘曰く一家の和樂は富の基なり何に大黒天を信仰しても一家が和樂せざれば決して富むとは出来ぬ

### 君臣の道

我國君臣の道は開闢以來整然たるみならず祖宗の教は國の内外を問はず人の貴賤を論せず賢を擧げ能に任し善を衆に取りしとは記紀神代卷に詳なれば爰に掲げず儒道に於ても四書六經の過半は孔子が君臣を使ふに仁を以てし臣君に事ふるに忠を以てすべきことを説けり佛教に於ても釋迦は四恩の中に國王の恩を説き又華嚴經に國に君王ありて一切の万民安穩なるを得れば君王は一切の万民安樂の根本なりとあり心地觀經にも人民の豊に樂むは王を以て根本と爲すとあり又王を尊ひ重んずると佛若くは父母の如くせよとあり耶蘇教に於ても新約全書に王を尊ふへし僕たる者は主人に従ふべし只善良なる者柔和なる者のみならず苛刻の者にも服ふへしとあり又人は二人の主に事ふると能はず蓋し此れを惡み彼れを愛み此れを親しみ彼れを疎むへければなりとあり

井上圓了曰く我邦は其億兆の臣民皆皇室皇族の末裔より出てたるを知れば古來君臣一家の如き國風ありて忠孝一致を以て人倫の大本と爲せるを知るべし是れ他邦に其例を見ざる一種特有の國風なり他邦に在ては忠孝其途を異にし支那の如きは孝を以て重しとす然るに我邦は忠を以て最も重しとせり是れ率土の濱皆王臣なる臣民一致の國風によるなり而して君に事へて忠なるは即ち親に事へて孝なるものと爲し忠孝兩全し難きときは寧ろ孝を捨て、忠を取らしめ以て億兆の臣民皆皇室を輔翼し奉り來り今更に其起る所以を考ふるに我邦君臣の間は恰も一家中の父子の如き關係ありて天皇陛下は我父なり之に忠を盡くすは父に孝を盡すと同一の感情を有し忠は孝の大なるもの、如く考へ來りて遂に忠孝一致の風をなし就中忠を重しとする風を爲せり實に我人民の忠義の感情は一種特別にして他邦人種中に未だ其比を見ざる所なり

### 父子の道

伊弉諾、伊弉冊二尊が三貴子を生みたる時大に喜び己の纏る玉を與へ且三貴子に各々職を授けしとは古史に在り大國主尊も兄弟に輕侮せられし時其父母が之を庇護し又父母の教に順ひたるとは古史に載せあれは父母に事へて孝を盡し父母も之を慈みたると明なり又事代主命は忠孝兩全なりとあり孝行の事は孔子は尤も熱心に之を説き孝は徳の本なり又孝は百行の本なりと曰へり釋迦も世間恩に四種あり一を父母の恩二を衆生の恩三を國王の恩四を三寶の恩と曰はれて孝行の事を説き又心地觀經に慈父の恩の高きとは須彌山の如く悲母の恩の深きとは大海の如しと又忍辱經にも善の極は孝より大なるはなく惡の極は其不孝なる乎と又梵網經に孝順は至道の法なり孝を名けて戒と爲すと又長阿含經に人の子たる者は五事を以て父母を敬ひ其命に順ふへし一には衣服飲食を供奉して乏しきとなからしむ二には凡そ爲す所あれば先づ父母に白す三には父母の爲す所は恭く順ひて逆はず四には父母の正しき命令には敢て違背せず五には父母のなせる正しき業は相續して斷たずとあり孟子は之を反面的に説き世俗の所謂不孝なるもの五、其四支を情り父母の養を顧みざるは一の不孝なり博奕を爲し飲酒を好み父母の養を顧みざるは二の不孝なり貨財を好み妻子に私して父母の養を顧みざるは三の不孝なり耳目の欲を從にして父母の戮を爲すは四の不孝なり勇を好み鬪狠して以て父母を危すは五の不孝なりと云へり耶蘇も爾の父母を敬ふべしと曰ひ又新約全書に子たる者は二親に服ふへし是主の悦玉ふ所なり父たる者は爾の子を怒す勿れ恐くは其氣餒らんとあり回教の十二戒にも第三に兩親に事ふるに順良なれ第五に貧の爲めに彼の子を殺す勿れとあり

會澤安曰く天照太神豊原瑞穗國は吾子孫の王たるへき地なりと宣ひ天孫に神器を授け給ふ神代の古より今に至るまで皇統易らせ給はざるは父子の親是より悖きはなし

### 夫婦の道

伊弉諾尊先きに唱ひ伊弉冊尊後ちに和し始めて夫婦の大道を明にし大國主尊は夫婦結婚の制を立て夫婦は神命に因るものなれば忽にすへからざる事を示せり蓋結と唱ひ男女盃を差替して心の變らざるを契ふは即ち尊と其后須世理姫との間に行ひたる風儀か今に至る迄結婚の式と爲れるなり又夫婦互に下紐を結交して他人には解せしと契り夫婦の約を重せり後世出雲の大社に於て毎年神か縁を結ぶ會議を開くと言傳へたるも之に原因す儒道に於て夫婦別ありと言つて男女の別を立て互に敬ひ愛すへきを説き孟子か齊の宣王の色を好むと曰ふに對し古公宣父の事を引き是時に當て内に怨みの女なく外に曠き夫なしと曰はれたるは邪淫を戒めたる語なり耶蘇も夫婦は上帝の命なるを説き又新約全書に妻たる者は其夫に従ふへし夫なる者は其妻を愛すへし苦を以て之を待つ勿れ又姦淫の故ならて其妻を出す者は之に姦淫をなさしむるなりとあり回教もコーラン第四章に妻を愛せよ能き衣を着せよ親切に彼女と語れとあり第二章に妻は夫か能く愛す如く夫に對し貞節なれとあり佛教に於ても知度論に夫婦互に敬ひ愛さるは罪惡の一なりと優婆塞戒經にも己の妻子を苦しめて他を憐むは眞正の慈善に非すとあるは己の妻を愛すへきを説きたるものなり

兄弟の道

天照太神其弟素盞鳴尊の暴を爲すも敢て之を咎め給はずして反て之を慰め素盞鳴尊も初め暴を爲せしも後に姉君の尊ふへきを悟り寶劍を献したり耶蘇教に於ても新約全書に衆ての人を敬ひ兄弟を愛せとあり儒教に於ても兄弟の道を五倫の一に置き長幼序ありと云へり孔子の門人子夏か死生命あり富貴天に在り君子敬して失ふなく人と恭くして禮あらは四海の内皆兄弟なりと云へしは耶蘇か天に在す父の旨を行ふ者は是れ我が兄弟我が姉妹我が母なりと云はれたるこ一對なり  
會澤安曰く伊弉諾伊弉冊二尊が天照太神は高天原を治むへし月讀尊は夜食國を治むへし素盞鳴尊

は海原を治むへしと任し給ひしは兄弟の序なり

朋友の道

大國主尊は少彦名命と友とし善くして共に國土を經營し少彦名命の此土を去るに及び深く憂愁せられしは友道を示したるものなり孔子は益者三友、損者三友、直、諒、多聞の三者を友と爲すは益なり便辟、善柔、便佞の三者を友と爲すは損なりと曰はれ佛敎に於ても因果經に朋友に三の要法あり一には過失あるを見れば輒ち曉し諫む二には好事あるを見れば深く隨喜の心を生す三には苦厄の難に在るを見れば救助して相棄てざる是なり瑣克拉的是世人は田畑衣服飲食を擇ふとを注意すれと朋友を擇ふとに注意せず人の喜怒哀樂は皆朋友より起るものなれば最も朋友を擇ふに注意すへきとなりと云へり耶蘇教に於ても人を議する勿れ恐くは爾曹も亦議せられん爾曹か人を議する如く己も議せらるへしと又朋友の間に在て謙遜の者は人に敬せられ傲慢なる者は人に蔑せらる故に汝等宴席に招かるも首座に坐す勿れとありマホメットは弟子セードかダブークの戰に於て戰死したる時はれ神命を全ふして其宜しきを得今や神に近きたれば遺憾なしと云へり然れどもセードの女か其遺骸を葬る時マホメットは其遺骸を撫して涕泣せり女怪み之を問へは友其友を吊するなりと云へり又回教の十二戒の第九に契約を守れ第十二に傲慢に地上を歩まされとあるは朋友に交る道を示したるものなり  
會澤安曰く思兼、手力雄、兒屋、太玉、建雷、猿田彦等の諸神心を同くして天神を輔翼し奉り友を以て仁を輔ければ朋友の信を申すなり

自主

神道は自主を尊ぶものにて記紀にも奴婢を除くの外は人民の總てを淨き公民又は大御寶と稱すどあり又大國主尊は民に生活と衛生との法を授け自治自愛の道を示せり釋迦も己は主にして万物は皆客なれば方法は唯我心識の變相なりと説きたり老子は人を知る者は智なり自から知る者は明なり人に

勝つ者は力あり自から勝つ者は強なりと曰はれ孔子は己に克ち禮に復れは天下仁に歸す又人の己を知らざるを患へず人を知らざるを患ふと曰はれ孟子は万物皆我に備はる又天下の廣居に居り天下の正位に立ち天下の大道を行ひ志を得れば民と之に因り志を得されは獨り其道を行ひ富貴も淫せず貧賤も移さず威武も屈せざるを大丈夫と謂ふと曰はれ王陽明は山中の賊を破るは易し心中の賊を破るは難しと曰はれたり瑣克拉的是世人皆無知に甘んず余も亦無知たるを免れざるも余の世人と異なるは自から其無知なるを知り眞の知識を得んと務むるに在りと回教のコーラン第二章に妄りに自己の身体を害せざる様なれ良心に反して不正を爲し他の物を貪る勿れと耶蘇は當時の人か自國のみ貴ひて他國の人を禽獸の如く思ひたるゆる人類は皆神の子にして同等なる事と人の生命は貴重すへき事を示したり

西村茂樹曰く吾儕人類は天地の間に生れて常に天地の管理を受く其生死吉凶禍福人智を以て之を料る能はずと雖も蓋し皆天命の前定せる所ならん故に西人の所謂自由(自由の字は英語のリバーチイを譯したるものなり或は譯して自主と爲す者なり自由と大に異なり余は自主の字を用ひんと欲す)なる能はず人類の生果して此の如き者なりとするときは吾儕此世に在りて何事をか爲すべき惟天賜の良心に従ひ仁を行ひ義を履み己を正しくし人を助け自ら省て疚しきことなく俯仰天地に愧ぢずして始めて人たるの道を全くしたりと云ふことを得べし彼天命を知らず己か小智を恃み私慾を逞くし奸詐を行ひ人を倒して自ら利せんとし常に役々として此世を没する者の如きは國家人民を害すること甚だしく眞に天の僇民と稱すべき者なり

### 立志

大國主尊は万民に幸福を與へんとの大願を發し玉ひ他の妬み妨げを或は忍ひ或は排して遂に其教と業とを後世に傳へたり釋迦も諸比丘に向ひ汝等若し勤めて精進せば事の難きものなし譬へは小水か

常に流れて止まされは遂に石を穿つか如しと説かれ佛者の心を一處に制すれば事として辨せざるは無しと曰はれたるは儒道の精神一到何事か成らざらんと一對の確言なり孔子か仁遠からんや我れ仁を欲すれば斯に仁至ると曰はれ孟子か文王を待て而る後に興る者は凡民なり若し夫れ豪傑の士は文王なしと雖も猶興ると曰はれ又能はざるに非ず爲さるなりと曰はれたるも立志の意なり又佛教に於ては懈怠の失を説き懈怠は衆行の累にして在家の人懈怠なれば衣食供はらす産業擧らず出家の人懈怠なれば迷の苦を出つると能はず悟の道を得ると能はずとあり回教の十二戒にも第十一に汝等安固を得ざるも失望する勿れとあり

中村正直曰く日本人の忠孝に對す立志と忍耐は決して西洋人に劣らない試に敵討の本を見よスマイルスの自助論にも無き程の苦心をしたる者か幾干もある今日此敵討をする程の忍耐を他の方に用ひたなら忽ち歐米に勝る國と爲る

### 忍耐

大國主尊は仁徳を有し万民に尊敬せられし爲め其兄弟の妬を受け屢々危険に遇ひしとありしも能く之を忍ひ千障万難に勝得て遂に國君の位に登り給ふ耶蘇の弟ヤコブユダは性苛酷にして無慈悲なれば耶蘇と共にナザレに住居する時も親密ならず故に耶蘇は孤立すれと遂に大業を成し得たり虞舜も其弟象の爲め屢々危険に遇ひしも能く之を忍びたるは何れも尊に似たる所あり孔子は小忍ひされは其大謀を乱すと曰はれ瑣克拉的是雅典市を徘徊する時惡戯者あり棍棒を以て瑣の背を撲つ瑣は之を省みず傍人瑣を詰り何ぞ其返報を爲さざるやと瑣靜に答ひ驢馬汝を蹴る汝驢馬に怒るかと云へり老子か柔剛に勝ち弱強に勝つと曰はれたるも忍耐の意を含めり釋迦は忍の徳たるは持戒難行も及ぶ能はず能く忍を行ふ者を名けて有力の大人と爲すと説かれ耶蘇教に於ても新約全書に忍耐は練達を生し練達は希望を生し希望は羞を來らせざるを知るとあり回教のコーラン第十章に忍耐ある人には榮ゆ

る子孫あらんとあり孟子は天の將に大任を是人に降さんとするや必先つ其心志を苦ましめ其筋骨を勞し其體膚を餓し其身を空乏にすと曰はれたり

岡本監輔曰く素尊逐はれて艱苦し横暴を化して聖敬に歸す後來大國主の國土を經營する亦辛苦を以て之を致す素尊の遺訓に由るなり艱難辛苦の事は其れ備に嘗めざる可けん哉大國主神備に艱難を嘗め地を拓き亂を撥し以て國土を經營し傍ら衛生療病等の法に及び天下後世の慮を爲す是れ一身にして三皇を兼ねたる者なり其大名持八千矛等諸般の號有るも亦怪むに足らざるなり

### 知足

大國主尊の分を守るとは前項に記せしか分を守るは即ち知足なり釋迦か諸比丘に向ひ多欲の人は多く利を求むる故苦惱も亦多し少欲の人は求むると少き故此患なし汝等諸の苦惱を脱せんこそは常に知足を知るへし知足は則富樂安穩の所なりと説かれたれば其門人獅子吼か少欲と知足とは何れの差別あるやと問ひたるに少欲は求めず取らず知足は少きを得て悔恨まざるなりと對へられたり瑣克拉的か尤も慾望の少きは最も神の道に近きものなりと云ひ又知足は富なりと曰はれ千古の金言と稱せられたるか老子も道德經に知足は富なりと記せり孔子は不義にして富且貴は我に於て浮雲の如しと曰はれ孟子は心を養ふは欲を寡くするより善きは無し欲寡ければ存せざる者あると雖も寡し欲多ければ存する者あると雖も寡しと曰はれ耶蘇は衆人に向ひ戒心して貪心を慎め人の生命は貯蓄の饒に因るものにあらすと曰はれたり

西村茂樹曰く支那の教(殊に老子の教)は知足を貴ふ洋學者之を賤しみ謂へらく支那の國勢の振はざるは知足の教之を爲すと余謂へらく知足決して不可に非す今日も宜しく守るべきの訓戒なり唯世人知足の義を誤解する者多し今之を辨せん凡そ知足は己か私欲殊に体欲(飲食男女の類)に就て之を言ふなり飲食の如き女色の如き快樂安逸の如きは尤も知足の戒を守らざるへからず(富貴

にも知足を守るべきとあり是は論旨錯綜せるを以て爰に言はす)學者が學問を研究し實業家か國を富すか如きは彌か上にも其廣大増加を求むべし知足は此の如き場合に用ふべき者に非す學者か學問を中廢し實業家か事業を中廢するか如きは之を安三小成と云ふへし安三小成と知足との戒は並ひ行はれて相悖らざる者なり

### 教化

大國主尊は既に一家の和合を得又万民幸福の基を開かんと欲し諸國を周遊して庶民を教化するを以て樂と爲すもの如し古史に尊は大和高志筑紫稻羽伯伎等に赴きたることを載す是等は何れも教化の爲めに赴きたるものなり高志は今の加賀、能登、越中、越後、越前にして筑紫は筑前、筑後、稻羽は因幡、伯伎は伯耆なり釋迦も迦毘羅衛國淨飯王の太子なれば其國王の位に即くべきに二十九歳の時太子の位を棄て雪山に入り阿羅邏迦蘭の兩仙に事へ難行苦行せると六年に及ひたれど更に心に得る所なかりければ摩迦陀國に適き菩提林中に黙坐すると數年遂に大悟して阿耨多羅三藐三菩提を得て華嚴(大方廣佛)の大乗を説くも此法難解難入を以て更に方便を設け阿含(長阿含中阿含雜阿含增一阿含等)の小乗を説くこと十二年此小乗の教か漸く世に弘まり大乘の説くべき機(大集經淨名經金光明經阿彌陀經大日經等)の來る見て方等(經阿彌陀經大日經等)を説くと八年般若(摩訶般若光讚般若金剛般若)を説くと二十年法華(妙法蓮華經)を説くと又八年にして其臨終に及ひ滅も滅に非ず生も生に非ざる眞理を説くと一日一夜之を涅槃(涅槃經)と謂ふ其衆生を濟度すると謂ふは即ち万民を教化するものなり瑣克拉的も眞神を信し希臘の古俗に反するを以て罪を得たる時司瑣に向ひ汝か罪を許さば能く汝か教を止めんや否やと問ふ瑣答て曰く大將の命を受けて戰に臨むや死生を顧みず余は神命を受くる者なり豈に死生を顧みる者ならんや余は一日命あらは一日神命を奉して汝等が眼を覺さるへからすと云へり耶蘇もカリラヤに傳道する時其門人中より十二人を拔萃して使徒と爲したるか彼等は元粗野下賤の貧民なれば耶蘇は非常の熱心と忍耐とを以て彼等を教化したり

後此十二使徒か各國に遊説し歐米諸國に於て今日耶蘇教の盛大なるは此十二使徒の力なり孔子も數十年間諸侯に遊説して安居するとなかりければ後世孔席煖ならずと謂ふ孔子は又書經を編輯し禮記を整理し詩經を蒐輯し音樂を改良し易經を註釋し春秋を筆削す世に儒道は宗教にあらずと曰ふ者あれど宗教の觀念のありしとは明なり故に天地万物を主宰する上帝の存在を認め居れり孟子は善政は善教の民を得るに如かず善政は民之を畏れ善教は民之を愛し善政は民の財を得善教は民の心を得ると曰へりマホメットも教を弘むる時メヂナの神殿に到り其神を指し偶像なり木片なりと云ひしかは神殿の監督コレイシの族之を聞き大に怒る是に於て其叔父アブダレブ過激の言を慎まんとを忠告すマホメットは之に答ふるに大陽我右に立ち大陰我左に立ち我に沈黙を命ずるもコレイシ全部の人間事物來りて之を禁するも上帝之を許し給は、我は眞理を述べざるべからずと云へり

因に記す佛教は婆羅門教より進化したるものなれば佛教を講ずるには婆羅門教を知らざるべからず婆羅門教には種類多くして佛教よりは凡て之を外道と稱し其外道の數を大日經には三十種とあり楞伽經には百八種とあり維摩經には六種とあり智度論には九十五種とあり涅槃論には二十種とあるも其本原は吠陀に歸す印度最古の宗教たる吠陀(吠陀とは智識の義)にては初めデイウスの一神を立てしか後にインドラ。アグニー。スルヤ。の三神を立て之を造化の神となすも此内インドラ(空氣の神又は帝釋と稱す)を以て第一と爲す派もあればアグニー(火の神)を以て第一と爲しインドラもスルヤ(日の神)もアグニーの一部なりと爲す派もあり其後ブラフマ。シバ。ウイシニユー。の三神を立て之を造化の神と爲すも是れ又ブラフマ(梵天)を創造の神シバを破壊の神ウイシニユーを保存の神と爲す派もあればシバ(自在天)を以て第一と爲し天地万物盡く自在天より成ると爲す派もあり又ウイシニユーを信して佛陀はウイシニユーの化現なりと爲す派もあるは佛教中眞言宗は大日と曰ひ淨土宗は彌陀と曰ふか如し歸する所は全知全能なる神を指すものなり婆羅門

教徒の左肩より右脚に三條の紐を掛くるは佛教徒の袈裟の如し珠數を用ひ朝夕祈禱を爲し(回數も珠數を用ひ祈禱を爲す)葷酒肉類を禁ずるは佛教と同じ婆羅門教は因果應報を説き又人を善道に導くに來世を説く其言に父母妻子親族も伴ふ能はざる他界に赴く時唯一の同伴者たるべき者は徳のみなれば日々己の職業を勤めて怠らす來世の同行と頼む可き友(徳を謂ふ)を得よ寶を集むるも携ふると能すとあり此説は佛教の阿含經にある一夫か臨終の時第一の婦より第四の婦に至る迄同行を勤むるも第一の婦(身体)第二の婦(財寶)第三の婦(親族)は従はず吾意に適はざる第四の婦(意)のみは従ひ行く譬と同一なり婆羅門教も其蓋奥に至ては高妙幽遠にして佛教と大差なきも迷信の多き所は大に佛教と異なれり又婆羅門教の一部に瑜迦と稱する一派あり冥想を凝して最高の實在者即ちブラフマと合せんとする法あり此法の修行は禪宗の座禪と畧々同じ獨逸の梵語學者ヴァルナルは印度の古文を翻譯し「婆多瑜迦の燈」と題し一千八百九十三年に刊行し其中に「瑜迦の眠」と稱し冥想を凝すは一種の催眠術なるを説明せり博士井上圓了か唐の太宗の時印度より來りたる僧が人を活殺すること自在なるも博奕に對しては行ふと能はさりし呪術も世の所謂不動の金縛と稱す秘術も催眠術の一種なりと説きたるを見れば印度にては古く催眠術の行はれし者なるへし」中村正直曰く古より聖人は天下の爲め一身を顧みず故に孔子は諸侯に遊説し席暖ならず釋氏は衆生を濟度する爲め王國の儲位を棄つ基督は身を殺して世を救ふ今此書を(菅公の書を指す)讀むに大國主尊の國を天孫に譲るは身を布教と勸業治病等に委ねて以て万民を救濟せんか爲めなり然らば則尊は我神道の祖にして實に尊崇を爲さるべからざるなり

久米邦武曰く三諸神社は大己貴國作りの幸魂なり大己貴の出雲避地の時は其年もまた初考に及ばず猶有爲の盛りなれば顯見の事をやめて専ら幽事の布教に力を謁され因て馴化したる民族は衆多かるべし故を以て大國魂神社は全國に存し陸奥地方にまで及べり大國魂は建邦神なり蓋し其教化

に景向するもの大己貴を建邦神の化身と崇敬したるなり建邦神とは欽明帝の時に蘇我稻目か百濟王子惠に昔在大泊瀨天皇汝國爲高麗所追命神祇伯受命於神祇祝者乃託神語報曰屈請建邦之神往救將亡之主必當國家謫靖人物又安原夫建邦神者天地剖判之代草木言語之時自天降來造立國家之神也云々といへり余の謂へる産靈神に相當す夫を釋紀には大己貴神也と解せり此の如く古代に大己貴の國民より崇敬されたとば實に非常なるものなり是も宗教の進路に於て必有の事にして怪むに足らず其故は在天の神は幽遠なり社會は眼前に顯はる威徳を視て渴仰の熱誠を鐘むるを常とす天主の崇敬を耶蘇に鐘め佛の信念を弘法親鸞日蓮に鐘むる等皆然り大己貴の國を作りて人望を集め己も以て神通と思ふ程なれば其教化に浴する者には目映程に尊かりしなるべしされは事代主の家聲益々識んるまゝに大國魂として崇拜益々隆んになり大己貴を以て天地を鑄造したる産靈神の化現と信したるなり

津田眞道曰く余は儒教も亦宗教なりと斷言す蓋し儒者の所謂天は耶蘇の所謂神なり其故奈何となれば書經等の古書は單に天と言はすして皇天上帝又は畧して帝と云ひたるにて證すへし然るに周の時其所在を以て稱して單に天と云へり新舊約全書に神と云はすして唯天と稱したる所あるに同じ又天主或は天父と云へるも其義は則一なり而して儒者の所謂天道は神教者の所謂神道なり小崎弘道曰く從來の宗教類別法は眞正の宗教と虚偽の宗教若しくは神の與へたる宗教と惡魔の造りたる宗教との二つにてありき而して基督教以外の宗教に一の眞理なしと爲すのみならず一の執るべき所なしとなせり然るに近來諸宗教の研究漸く盛なるによりて基督教と他の宗教との區別は必ずしも眞偽正邪の正反對なるに非ず何れの宗教にも多少の眞理を含まざるなく又多少執るべき所なきにあらざると明になれり一千八百九十三年に於てシカゴの大博覽會と共に萬國宗教大會を開きたるか如き到底前世紀に於て見ることを得ざる新現象にして基督教と他の宗教の關係に於け

る思想に大變動ありたるを示すものとすへし神の默示は只ユダヤ教基督教のみにあるに非ず他の教にも多少あらざるはなく他の教も必ずしも基督教の敵に非ざるを知る此の如く其思想の廣くして包容的になりたる結果基督教それ自身に對する思想の上にも亦多少の變化なしと爲すへからず吾人は此思想變遷の中流に立てる者なり吾人か我國に基督教を輸入せんとするに當り其眞理の實核のみを取て總て其糟粕を排除し去らんと欲するは自然の思想と爲さるべからず前田慧雲曰く過去現在因果經には阿羅邏の説を記して左の如く云へり「阿羅邏伽蘭告太子曰衆生之始始於冥初從於冥初起於我慢從於我慢生於痴心從於痴心生於染愛從於染愛生於五微塵氣從於五微塵氣生於五大從於五大生於貪瞋等煩惱乃至入非想非非想處此爲究竟解脱云々」俱舍稽古には阿羅邏の説此の如くなれば蓋し雨衆即ち數論外道の徒ならんと云へり然るに數論は冥性と神我との二元を立るものなるに阿羅邏は右經説に依て見れば冥初と神我とを對立的二元として説かずして只冥初の一元のみ説くもの、如くなれば純然たる數論の徒に非ずして數論に據て別に一元を構成したる哲學者たるもの、如し兎に角阿羅邏は佛教大乘的思想を有したる哲學者にして太子は之に就て其説を聞かれたるには相違なきなり又曰く佛已前に在て印度思想界の發達か既に繁華の盛觀を呈し居たることは異論なき所なり中に就て最も高妙幽遠なる理致を含むるものを勝論數論及大自在天外道の教理とす而して勝論は六句義即ち極微と隱力とを以て万有を説明する者にして心物多元論なれば稍々佛教小乗中の有部の教義に近けれども他の數論及大自在天外道の所立に至ては頗る佛教大乘教理に類したるものなしとせず

### 教と政

大國主尊は既に國土を奉還し報して曰く吾か治むる所の顯露の事は皇孫當に治むべし吾は將に退て

國事を治めんとすと日本書紀に載せあり幽事は即ち教なり尊は政と教とに心力を盡されたる事は尋常一様にあらずして其方針は誘掖勸導なり儒道に於て禹は天下に溺るゝ者あれば己之を溺すと思ひ稷は天下に飢たる者あれば己之を飢すと思ひ伊尹は天の斯民を生するや先知をして後知を覺さしめ先覺をして後覺を覺さしむ予は天民の先覺なる者なれば予は將に此道を以て此民を覺さんと思ふに天下の民匹夫匹婦も堯舜の澤を興り被らざる者あれば己推して之を溝中に内るゝが如しと曰はれて其自から任するに天下の重を以てしたる所は即ち尊と同一の方針なり佛教に於ても涅槃經に如來は自心に苦みを受くるも苦を覺へず衆生の苦を受くるを見て己の苦の如くす衆生の爲め地獄に居るも苦の想と悔ゆる心を生せず一切衆生か種々の苦を受くると悉く如來一人の苦と爲せりと孔子は之を道くに刑を以てすれば民免れて耻なし之を道くに徳を以てすれば耻あつて且格むと曰はれたり黃石公の三畧に己を捨てゝ人を教る者は逆なり己を正して人を化する者は順なり逆は亂の招にして順は治の要なりとあり尊は己を正して人を化したるものなり

井上毅曰く獨逸流の行政學の目的は「レヒト、スターツ」計りでなく更に一步を進めて「クルツール、スターツ」で無ければならぬ「レヒト、スターツ」は法律國と云ふ意にて法律を以て治むると云ふことでは計りでは政府の職掌は盡さない其れで「クルツール、スターツ」で無ければならぬとなつて居る「クルツール、スターツ」は教化國と云ふ意で則ち誘掖勸導上より人民の幸福文明を進むることを云ふのである英吉利流の學者の説く所は「レヒト、スターツ」に止まるのであつて行政の目的は人民の權利を保護するに止まると云ふのである輓近の獨逸流の學者の説では「レヒト、スターツ」のみでは足りない「クルツール、スターツ」で無ければならぬそこで教育及び理財から人民の智識活計を増進しなければならぬと云ふことになつて居る是れか英吉利流の學者の説く所と獨逸流の學者の説く所との差別である是れが三十年前の行政の解釋と三十年後即ち今日の行政の進歩との

の差別である「クルツール、スターツ」の幸福利益を増進すると云ふは何等の理由に因て然るか云ふことを哲學的に考へると獨逸のヒギューグロッシュユースの言ふ通り一の親愛より生する外は無し一方は人民の貧乏で餓死するは餓死するに任せ世話をするには及ばない世話をすると世の勵みを妨げると云ふかも知らぬが其れは親愛的の眼で觀察すると決してさふでない人民は何所迄も貧乏者の無い様に億兆の民を誘導して幸福利益を得せしめなければならぬ其原因は何かと云ふと親愛に違ひない斯く言ふと行政學の根本は仁の一字にあると云ふことが言へる私は歐羅巴の行政學の説明を段々玩味して歐羅巴の近來の進歩たる行政學の主意は即ち孔夫子の仁の一字にあるに相違ないと云ふことを見出して獨り喜んで心に楽しんで居ます又佛蘭西にアコラスと云ふ學者がある是れは西園寺公望中江篤介光妙寺三郎杯の先生である此人の説はオーゴスト、コントの説を敷衍した者である然るにオーゴスト、コントやアコラスは世人が「ソシヤリスト」して擯斥する位で有て其説の中には之を取捨しなければ一概に採ることの出来ないと云ふ位の人である併ながら其人の説の中に珍しい一種の説を見だした其れは何かと云ふと「アッフエクション」之を翻譯すると親愛と云ふことであるがアコラスは「アッフエクション」氣違であつて其の爲めに一部の書を著して居るか其大意は政治經濟並に法律は凡て「アッフエクション」にある即ち政治學經濟學法律學の本は皆親愛即ち仁に在ると云ふことを説いて居りますヒギューグロッシュユースの説と其目的とする所は全く同一である

細川潤次郎曰く余嘗て仁と曰ふことに於て窃に疑ふ所あり久しく其説を得ずして此疑は常に余が胸中に往來したり其疑ひとは孔子の仁を以て唯一の教則と爲せること是なり余は素より仁と曰へる語の實に善且美なる道德の準則にして人生の尤も服膺すべきものたることを信する者なり然れども曾子の語に夫子の道は忠恕而已矣とあり夫子の道は仁のみと言はず然らば仁は美德に相違な



きも仁より外にも猶種々の美德ありて義もあれば怨もあり忠もあり勇もあり信もありて此等は容易に指を屈して數ふべきにあらざるに孔子の道は尤も仁を重んじて頻りに此仁の字を説かれたるは別に其説あるへしと思ひながら其説を得ざる故に之を疑ふたるなり近年偶々西洋の説中に人生行爲の準則とすべきものを論じたる中に仁とは曰はねども孔子の所謂仁に類似せるものを無上の善事なりとしたるを見て孔子の所謂仁とは此の如きものにてはなきやとの感觸を生じたり开はベリーム氏の所謂愛情即ちコーム氏が所謂善良の所爲他人に幸福を與へ人情に利益あるものにして又カント氏が所謂一般の法律と爲さんと希望すべき規律とも曰ふべきものなるべく包括して言ふときは數句の言語となるも之を約言すれば愛情を行ふの一點に歸すべし此愛情は即ち孔子の所謂仁にして朱子の註に愛之理、心之徳と曰へることに符合するものなるべし更に古に溯りて之を考ふるに彼の有名なる羅馬帝ヂユスチニヤンの法律書の首に三條の教典を設けたり此三條は道德の基礎法律の根本となるものにして道德家も法律家も共に能く記憶する所なり此時に當ては道德と法律との分果分明ならず常に之を混同するの習なればヂユスチニヤン帝も亦二つのものを混同して此説を設けられたり故に道德家も此教典を奉ずることゝなれり、一に曰く他人を害すること勿れ、二に曰く人の物は人に在り手を觸るゝへからず三に曰く行を慎め(中略)此の如くヂユスチニヤン帝は三條を設けたりと雖も其尤も重きものは第一條に在り故に後人此教典を稱して「人を害すること勿れの教典」と曰ふに至る亦第二條と第三條とを取らずして専ら第一條を取るものは第二の教典は第一教典に混同することを得べくして第三の教典は美事には相違なければも第一第二の教典と價値を争ふものにあらざるべし其故は人の身体は勿論名譽までも毀傷すべからざるものならば人の財産を毀傷して可なる理あるべからず人を害すること勿れとの語中に人の身体名譽財産迄包含して悉く害すべからざる者なりと解するときは第一教典にて十分なるべし此

教典は恰も三綱五常の如く吾人彼我の交際をして完全ならしむるものなり此教即ち第一の教典吾人の愛情を我同胞に對して行ふ所のものに外ならざれば則ち又之れを約して仁と曰ふことを得べし更に古に溯りて耶蘇教典の汝の敵を愛せよとは愛情を行ふの極點を示すものなれば其に之を稱して仁と曰ふことを得べし彼の耶蘇は寶血を以て普く世人を救はんとしたるものなれば墨子の摩頂放踵利天下と同一く其愛情を行ふに於ける性命を犠牲にするに至れるものなり仁は此の如く古今に通ずる人道たるのみならず中外に通ずる人道にして道德の標準法律の根本となるべきものたること上に言ふ所の如し人を害すること勿れとの原則は彼のヂユスチニヤン帝の道德法律の基礎として其法典に記載せるものは今人も猶は遵奉する所にして社會相互の間一日も無かるべからざる者たることは孔子の教の最も重する仁の一字と其大旨相同しかるべし併しヂユスチニヤン帝若くは孔子の原則を守ればとて低頭拱手して他人の殺傷を甘ずべきものにあらず故に法律に於ては人の熟知せる正當防禦及び損害賠償等の權利を生ず此等の權利は歐米各國の認むる所なるのみならず我邦の刑法民法及び訴訟法に於ても亦之を認め身体生命を正當に防禦し已むことを得ざるに出で暴行人を殺傷したる者は自己の爲めにし他人の爲めにするを分たす其罪を論せずと曰へるは即ち是なり人を殺すは固より惡なり然れども此の如き所爲に出でざる時は正當防禦の目的を達すること能はずして己の性命を保全することを得ざるに至らんとす此暴行人に對しては殺傷を許すの已むを得ざることは殆んど兵士の戰鬪に臨み其敵を殺傷するに類するものなり佛人ボワストル氏の天然法に據れば此の如き防禦の事を以て人生固有の權利を侵す者に對して生ずる一の權利と爲せり人生固有の權利の侵すべからざる者を侵すときは之か爲め二個の權利を生ず一は則ち防禦の權、一は則ち要償の權なりとす孔子曰く不仁者加乎其身と蓋し仁者は必ず不仁を惡む不仁を惡むは不仁の事を其身に及ぼすまじと心掛くることは當然なることなれば暴行人に對

して正當防禦を爲すは當然なるべし此説は正當防禦の事を云ふものにあらずとするも正當防禦の道理も自然に此より生ずる者として不可なること無かるべし正當防禦を法律に掲ぐる所以は其不仁なるか爲め之を惡むの人情を發達せしむる者たるに外ならず孔子曰く仁者可欺也不可罔也と又曰く仁者必有勇と此等の言を併せ考ふるときは孔子の所謂仁は義を兼ね勇を兼ねたる者なれば勿害人の原則よりも意義廣濶且完全にして眞に無上絶對の美德と謂ふべきものならん小崎弘道曰く政と教とは所謂車の兩輪にてかた／＼一を廢すべからず兩者相待て始めて一國の開明を期すべきは世界の公論なるか我國は維新以來唯々政のみを以て其國を立てんとす亦危からずや論者は我國を以て法治國と唱へ其法律の整頓せるを以て誇れども是れ孔子の所謂道之<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>政齊<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>刑民免而無<sub>レ</sub>耻ものにて甚だ輕薄なる社會となるを免れず余嘗て英米に遊び彼國の慣習を視察したるに彼國に於ては案外にも法律に拘泥すること少く諸事道德を以て標準と爲さざるはなし金錢の取引其他に於ても我邦の如き繁雜なる證書等を用ゆる風儀あるを見ず我邦に於ては總て法律を以て標準となせば法律に觸れざるものは何事にも爲し得べしと考へ唯々法律の目を潜くることを求めて能く法律の網を脱し不正の事を爲す人を以て智者と爲すに至る實に歎すべきことなり

### 教は心に在り

大國主尊は既に教を垂れ玉ふも成文の者なきゆる其教は淺薄なりと曰ふ者あれと是れは大なる誤りにて教は總て心に在るものなり老子か聖人は無爲の事を處り不言の教を行ふと云へり又大道廢れて仁義あり智慧出て、大偽あり六親和せずして孝慈あり國家昏乱して忠臣ありと曰はれたる如く我邦は開關以來君臣上下の分定り且人民醇朴にして猛惡の者少し故に繁穡なる教を設くる必要なきに職由ず佛教も以心傳心を以て教となし文の如く義を取るときは佛の深意を害ふに因り此人は三世諸佛

の怨なりとあり孔子か天何をか言はん四時行はれ百物生すと曰はれたるも教は成文のみに因るものにあらずることを示したるものにて孟子は盡く書を信せば書なきに如かずと曰はれたり

因に記す神道の和魂荒魂は意味廣くして儒の中庸に在る人心道心にも充つへく又佛の煩惱菩提にも充つへし故に神道も佛教も佛教も凡て教は心に在ることを説く中庸は孔門傳授の心法にして佛の般若心經に同じ中庸の天の命之を性と謂ふは佛の所謂真空なり偏ならざる之中と謂ふは平等にして易はらざる之を庸と謂ふは不生不滅なり故に程子は中は天下の正道庸は天下の定理と云へり又朱子は中庸の首章に對し道の本原天に出で、易ふへからず其實体は己に備つて離るへからざることを明にせんと云ひ又夫の外誘の私を去つて其本然の善に充てんことを欲するものなりと云へり其實体己に備つて離るへからざるとは反面的より解釋すれば即ち色即是空空即是色にして夫の外誘の私を去つて其本然の善に充つるとは即ち般若波羅密多なり故に中庸に依れば佛教の所謂阿耨多羅三藐三菩提を得へし

西村茂樹曰く古書を尊信するは可なり古書に拘泥するは不可なり牽強附會は尤不可なり儒者の如きは古書を尊信するよりして拘泥に陥る者少からず間に或は牽強附會を爲すものとなきに非ず國學者神道家と云ふ者は國民として尤も愛すべき民なり不幸にして彼等は學問狹隘にして識見固陋なる者多し其本邦の古書就中古事記の如き書を讀むに大抵拘泥に非ざれば牽強附會なり今日人心外を慕ふの心強く耶蘇教家の如き洋學者の如き動もすれば人心を誘惑して外に歸嚮せしめんとす此際に當り能く心を秉る堅實にして其誘惑を受けざる者は獨り國學者神道家を然りとす若し彼等をして其學問を一層博くし其識見を一層高からしめば國家の爲に益を爲すと更に大なる者あらん惜むべきことなり

### 大國主尊の三徳

大國主尊が上は天神天祖に對し下は億兆の爲め教化を施したるは仁に屬し儒教の所謂明德を天下に明かにする道にして佛教の所謂佛陀の行なる利他なり立志忍耐又は其子等をして天孫を守護せしめたるは勇に屬し儒教の所謂治國齊家の道にして佛教の所謂菩薩の行なる自利や他なり分を守り及び知足等は知に屬し儒教の所謂修身の道にして佛教の所謂聲聞の行なる自利なり

井上圓了曰く古來徳を分ちて數種となす或は之を智仁勇の三徳に分つ其智は智慮分別の徳にして個人の道徳に屬し其仁は仁慈博愛の徳にして社會の道徳に屬し其勇は忍耐克己立志等にして個人と社會とに通ず若し勇の最も大なるものを擧ぐれば國民の元氣愛國の精神なり之を我國にては日本魂と云ふ是れ國家の獨立を維持する國民的大元氣なれば必ず之を養成せざるべからず其他殖産興業に勉強忍耐を要する如きは敢て辨解を待たざるなり

### 惠比須講

大國主尊の子事代主命は父の命を受けて民に漁魚と獵鳥との業を授けたるのみならず農商の業も奨勵せしゆゑ今に至るまで商家にては其營業の何たるを問はず其徳を報せん爲め農家は十月二十日商家は一月二十日に惠比須講と稱し事代主命を祭れり惠比須の名稱に就ては種々の説あれど福神教訓袋に命は天離夷あまのり即ち帝都を離れて夷に住むゆゑ其住む地を代稱して夷と曰ふとあり

石川義形曰く惠比須講の由來する所は詳ならずされど事代主命の長女は神武天皇の皇后にして次女は綏靖天皇の皇后なれば日本人民の祖先なるゆゑ惠比須講を爲すは報本反始の一なれば農商業にあらざる者と雖も宜しく爲すべき事なり

### 女を重んず

神道は女を重んじ女も充分に教化したれば儒道や佛教の入らざる前に於て聰明なる女子を出せり第一伊弉册尊か伊弉諾尊と共に國土を平定し大國主尊の後須勢理姫か尊を内助せし事は古史に載せあ

り其他豊鍬入姫及び倭姫の齋祀を司りしと狭穗姫の貞と義、夏磯媛の歸順後の功、弟橘媛の貞操、神功皇后の果斷の如きは其一なり素盞鳴尊か「八重立つ出雲も八雲垣妻こみに八重垣造る其八重垣を」とあるも彦火火出見尊か「おきつ鳥嶋とく島にわかいねし妹は忘れじよとのことく」とあるも神武天皇か「葦原のしこけきをやに菅壘いやさやしきて我が二人ねし」とあるも皆其后や妃に對し之を愛し之を重んじたる意なり孔子は女子と小人とは養ひ難しと云はれたれど是れは未開の婦人を指したるものにて文王の母大任と武王の母太姒との賢、孟母の三遷の教の如きは後世之を稱賛せり佛教にても外面如菩薩内心如夜叉と蔑したるは當時の婦人は愚痴にして嫉妬深き故なり心地觀經に何れの法か世間最も富有にして何れの法か世間最も貧無となすならば母の堂に在る時か最も富にして母の没して在らざる時か最も貧なりとあれば強ち婦人を賤みたるものにあらず方今と雖も我邦一般の婦人を見れば實に言ふに忍びざる所あれば敢て儒佛を非とすると能はず耶蘇教は神道の如く女を重んず西人の言に婦人は絶大の書を著さす絶大の機械を發明せず然れども此等より更に大且善なる者を成就せり其大且善なる者とは其膝下に於て薰陶養成する德行卓絶の男女是なりと回教のコーラン第四章に女を敬せよ女より汝生れし故とあり拿破崙第一世の母も華盛頓の母も皆賢人にして恰も大任太姒孟母もの如し故に拿破崙第一世は國の強弱は女子の教育に關すると云へり一休和尚か戯に「女をは法の御藏といふぞ實に釋迦や達摩をよひこくと生む」と口咏せしは西人の言に相似たり

辰巳小次郎曰く上古神代の時男尊女卑の稱はあるも實際は女子も中々勢力あり又女を善き相談相手として共に謀りしとあるは須勢理姫、豊玉姫の傳は見ても明なり

大隈重信曰く我先祖なる婦人の中には頗る外交政略の機才に富みたる者ありき畏多けれども神功皇后の如きは航海術開けさる上つ世に在て海を渝へて師を動かし能く其偉功を奏せられしのみならず戦勝のかたみとして彼國の文物を我國に輸入するとを務められたり文學工藝の送品は實に神

功皇后か外交的手腕によりて其素をつくり我邦二千年來文明の基礎此時既に成りぬ神功皇后は一方に於ては武力を揮ひしといへども一方に於ては優に三韓文明の粹を吸收せしか如きは予輩か最も推賞すべきことなりとす一言すれば此攻戦は單に侵略にあらずして朝鮮の爲めには平和なり日本の爲めには啓發なり

### 改過と讖悔

神道にて禊と稱するは單に身体を淨むるのみならず心も淨むるものにて儒教の所謂齊戒沐浴なり故に此禊は即ち改過にも讖悔にも屬す孔子は過ては改むるに憚る勿れと曰はれ佛敎に於ても灌頂の禮あり又釋迦は人過ありて悔改めされは罪惡身に來りて水の海に入り漸く深く廣くなるか如しと説かれ瑣克拉的是余は只人の心を明にして其過を去らしめんと欲するのみと云へり耶蘇敎に於てもヨハネは貴賤貧福を問はず凡ての聽衆に向ひ先づ自からの罪惡を悔改むべきことを告げ改心したる者には其證として洗禮を施せり又耶蘇かパリサイに在る時我か來るは義人を招く爲めに非ず罪ある人を招きて悔改めせんが爲めなりと云へり回教もコーラン第四章に知らずして犯せし罪は悔ひ悔めよ神は之を許さんとあり

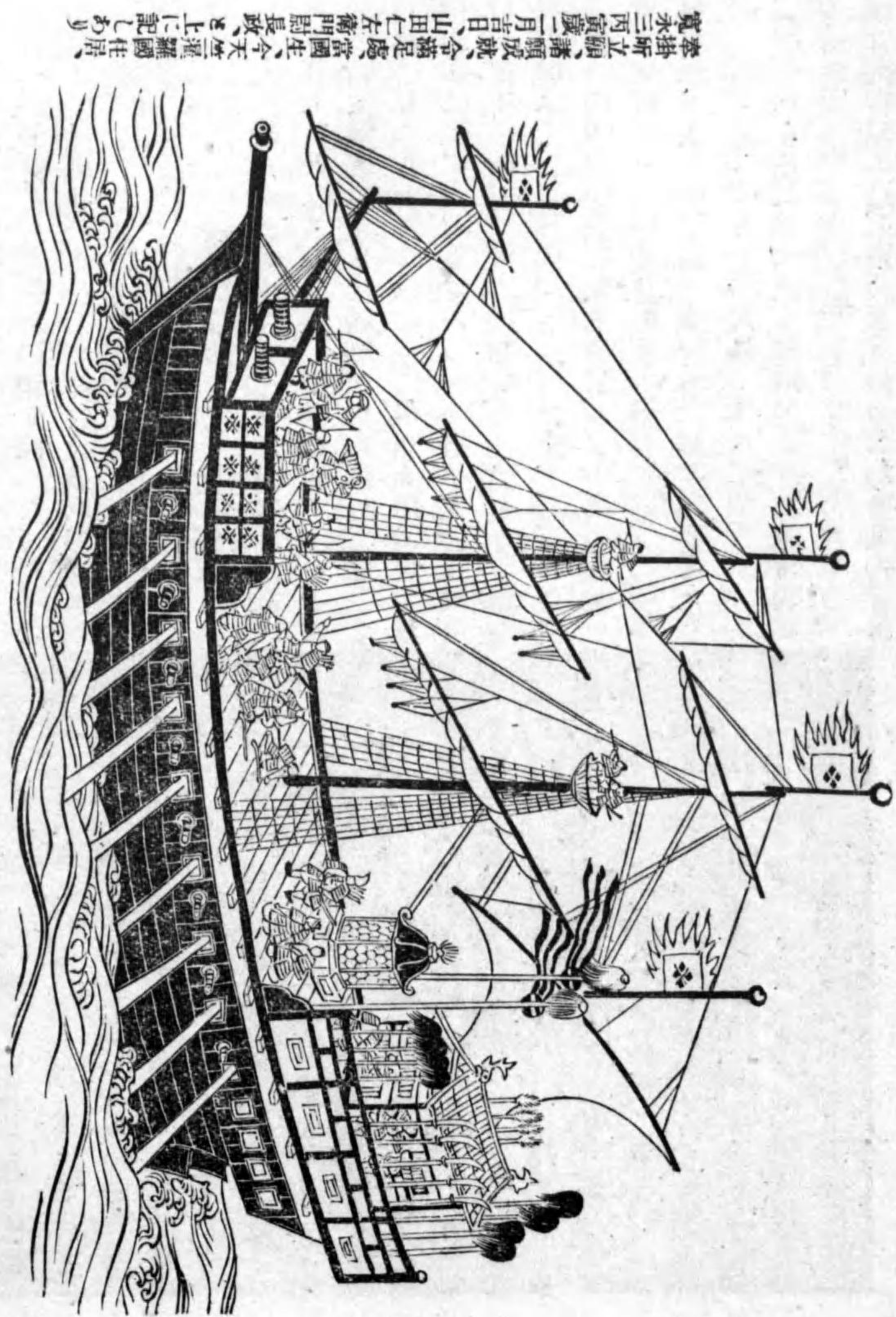
岡本監輔曰く禊は妄念を滅絶し太虚に皈する所以なり是れを高天原に鎮坐すと謂ふ即ち三神と合一を求むるの謂なり是れ儒家の齊を致し道家の息を數へ佛家の禪定と粗く近し而して其功尤も着實と爲す中瀬は疾からず弱からず尤も體膚に適す唯々心を治むるの要なるのみならず兼て衛生の益あるなり兼家百首に「橘の小戸のみそきを始めて今も清むる吾身なりけり」と身は内外を兼て言ふ

### 因果應報

神道にて神前に鏡を置くは己か喜を以て他人に向へは他人亦喜を以て己に向ひ己か怒を以て他人に對せば他人亦怒を以て己に對すると猶ほ己の喜怒哀鏡に現はれて己に向ふか如しとの誠の標本なり又正直の頭に神宿ると云ふは善を爲せば善か來るとの意味なり釋迦は其弟子に向ひ惡人の賢人を害ふは猶ほ天を仰きて唾するか如く唾は天を汚さずして還て己の身を汚し風に逆ふて人に扮すれば塵は彼を汚さずして還て身を汚す賢者は毀つへからず禍は必ず己を滅すなりと云ひ又信徒に向ひ善男子よ善因よりは善果を生すと知り惡因よりは惡果を生すと知りて惡因を遠け離れよと又善惡の報は影の形に従ふか如しと説かれ耶蘇敎に於ても新約全書に汝等人の罪を免さは天に在ます汝の父も汝の罪を免し給はらん又人を議すると勿れ恐くは汝も亦議せらんと又凡て善樹は善果を結ひ惡樹は惡果を結ふと在り道教に於ても禍福門なく自から召く善惡の報は影の形に従ふか如しとあり儒敎に於ても孔子は汝に出てる者は汝に反ると曰ひ書經の伊訓には善を爲せば天之に百祥を降し惡を爲せば天之に百殃を降すとあり又積善の家には餘慶あり積不善の家には餘殃ありと云ひ大學には寶悖つて入る者は亦悖つて出づとあり又孟子は滕の文公に向ひ苟も善を爲せば後世子孫に必王たる者かあらん君子は業を創め統を垂れ繼ぐべきことを爲す其成功の如きは天なれば強めて善を爲せと曰はれ回教もコーラン第一章に好て善を爲す者は神之を惠む第二章に汝の胸中のと汝の言ふと神之を知る天にあると地にあると皆之を知る終の日に平日爲せし善惡皆酬はる第六章に善を爲せし人は善報を得んと十倍惡を爲せし人は惡報を得んと亦十倍とあり又黃石公の三畧にも賢を傷ふる者は殃三世に及び賢を蔽ふる者は身其害を受け賢を嫉む者は其名全からず賢を進むる者は福子孫に流るとあり岡本監輔曰く纂疏に曰く顯事は人道なり幽事は神道なり人、惡を顯明の地に於て爲さば即皇帝之を誅し惡を幽冥の中に於て爲さば則鬼神之を罰す善を爲し福を獲る亦之に同し神事は即冥府の事なりと此言易ふ可らざるのみ

### 名家の信仰

大國主尊の徳は菅原道真も深く之を信し日蓮上人も亦深く之を信す日蓮の自刻又は自畫の尊像と稱するもの世に傳へらる日蓮に先つて弘法大師は法華經中の文を取りて尊の贊を爲したるものあり又弘法に先つて尊を信仰せしは役小角と傳教大師なり河内國古市郡大黒村大黒寺の尊像は小角の作なりと云ふ小角は役行者と稱し我邦修驗の祖なり修驗は佛法の一部と道教の一部とを混同して難行苦行を爲し祈禱を以て法と爲すものなり大黒天の文字は梵語の摩訶迦羅にして大日經疏、最勝心明王經、仁王經、孔雀王經等に依れば或は寶類として説き或は權類として説き三面六臂にして大日如來の化身又は摩醯首羅の變身ともあり此神、軍神又福神なるを以て行基傳教弘法等か神佛兩部を唱へし時八幡宮を八幡大菩薩春日神社を春日大權現と曰ふ如く大國主尊を大黒天と稱し兩部と爲したるものなりと云ふ大國主尊は福神のみならず武運の神なれば山田長政の暹羅に赴くや深く駿河國の三社を信仰し遂に大功を立てたり三社とは現今静岡に在る神部淺間大歲御祖なり神部は崇神天皇の勸請に依り大國主尊を祀りたるものにて最も古く淺間は醍醐天皇の勸請に依り木華開耶姬を祀り大歲御祖は應神天皇の勸請に依り大歲御祖を祀りしものなり今淺間社に在る長政の奉りし軍艦の額(安永年間焼失し今其模寫を保存す)に徴して明なり又山陵奉行戸田大和守の信仰せし日の出大黒尊は傳教大師の作なりと大和守か未だ著しき昇進せざる前下谷廣徳寺前を通行するに駕籠の裡より不圖古道具屋にある大黒尊を見ると何となく我を招くの面持なれば從者に命して之を購はしめて信仰せしに不思議にも其より恰も階を降るか如く昇進したりといふ又楠公か尊を信仰の書狀「此度大黒尊天之像一軀爲國家安泰武運長久之守護彌被差遣候上者屹度可令信心祈禱候恐々謹言、五月八日、左衛門尉正成勸心寺方丈」は我家の寶物なりしか先人罪を得たる時土藏に皆封印の儘家族一同放逐せられたれば他の寶物と共に失ひたり只此書狀に就て熊澤蕃山より我九代祖如水に宛てたる書狀と同好に分らん爲め楠公の書狀を石摺に爲したるものは今尙存在せり



奉掛所立御、諸願成就、今滿足處、當國生、今天野河羅國生、寛永三丙寅歲二月吉日、山田仁左衛門尉長政、以上記しあり

小野通曰く豊臣秀吉公播州姫路に在城の時大黒尊を信仰し山樂をして大黒尊の像を描かしめ甲子の日に祭りて幸福を祈るへしと其臣に分ち與給ふ高木敏雄曰く日本書紀神功皇后の條に九年九月己卯令諸國集船練兵甲一時軍卒難集皇后曰く必神心焉則立大三輪社以奉三刀矛矣軍衆自聚とあるは大三輪の神か威力畏るへき守護なるか故に此神を祭られしなるべし果して其効驗ありたるなり此と稍々關聯したるは播磨の伊和神社に關して峯相記に見ゆる文なり曰く一宮伊和大明神者穴栗郡伊和郷に坐す素戔鳴尊の第一の皇子大己貴尊白山妙理權現と顯坐す爰に神功皇后三韓をせめ給ひし時副將軍として彼の戰場に向ひ坐す靜謐の後皇后歸洛の時尙異賊勝に乗る事あらは中國の諸神を相催て責戦へき由御約諾を蒙り神勅に隨て當國神戶地は四方山を廻て河の流れ谷に無雙の要害たる間此に陣を取て薨卒の躰を顯し坐すとあり千家尊福曰く後醍醐天皇も御信仰あり王道再興勅願の繪旨と云ふものか私の家にあります其文は「被繪旨稱右以王道之再興者專神明之加護也殊仰當

小野通曰く豊臣秀吉公播州姫路に在城の時大黒尊を信仰し山樂をして大黒尊の像を描かしめ甲子の日に祭りて幸福を祈るへしと其臣に分ち與給ふ高木敏雄曰く日本書紀神功皇后の條に九年九月己卯令諸國集船練兵甲一時軍卒難集皇后曰く必神心焉則立大三輪社以奉三刀矛矣軍衆自聚とあるは大三輪の神か威力畏るへき守護なるか故に此神を祭られしなるべし果して其効驗ありたるなり此と稍々關聯したるは播磨の伊和神社に關して峯相記に見ゆる文なり曰く一宮伊和大明神者穴栗郡伊和郷に坐す素戔鳴尊の第一の皇子大己貴尊白山妙理權現と顯坐す爰に神功皇后三韓をせめ給ひし時副將軍として彼の戰場に向ひ坐す靜謐の後皇后歸洛の時尙異賊勝に乗る事あらは中國の諸神を相催て責戦へき由御約諾を蒙り神勅に隨て當國神戶地は四方山を廻て河の流れ谷に無雙の要害たる間此に陣を取て薨卒の躰を顯し坐すとあり千家尊福曰く後醍醐天皇も御信仰あり王道再興勅願の繪旨と云ふものか私の家にあります其文は「被繪旨稱右以王道之再興者專神明之加護也殊仰當

社之冥助欲四海之太平仍退逆臣爲令復正理舉義兵所被企征伐也速得官軍戰勝之利可歸朝廷靜謐之化旨擬精々可祈申勅願令成就勸賞可依請者依天氣狀如件元弘三年三月十四日左中將花押(六條忠顯)杵築社神主館是れは伯耆國船上山より賜はつたものであります又毛利家に於ては元就輝元を始め元春隆景の諸氏屢々參拜して居られました輝元からは銅の大鳥居を寄附されましたか寛延二年九月二日に倒れましたたゆゑ其れにて弘化二年に大砲二門を鑄造して一を稜威砲といひ一を神風砲と申して今も八尾御門内に納めてあります此鳥居が倒れましたから輝元の孫綱廣の代即ち寛文六年に又新に銅の鳥居を寄附になりました今も本社正面に立つて居ります

記紀と他教の經典

神道の古事記と日本書紀とに於けるは儒教の四書六經、道教の道德經、佛教のツリビタカ(大藏經或は一切經とも云ふ)耶蘇教のバイブル(舊約全書と新約全書)回々教のコーラン(必讀すべき意味)に於けるが如し

副島種臣曰く記紀は天地開闢の初に源せる道義の經典なり忠孝の明鑑なり人倫の大道を事實に明示して萬世に垂るゝ天祖の遺範なり

勝安芳曰く世間或は神武天皇の紀元を信せるのみにして神代の昔は全く之を信せず我建國は遙に支那開國の後に在るが如き妄想を懷き我國家の尊嚴なる所以を思はず貴重なる歴史を汚讀するもの甚た少しとせず現今の學者我國に對する感情は各自其意を異にせるは甚だ憂ふべきの事共なり其本源を討ぬれば學者我國の歴史を重せざるに基する事にして日本の歴史を萬國の歴史と同一視し只一の普通學科とし或は専門の一學科とするは今日の狀態なり英佛獨伊等西洋諸國の大學皆甚た自國の歴史を尊崇するは決して我國人の冷淡なる如くならず支那に在ても古來士人の最も尊崇して講ずる所は自國の歴史なり自國の歴史を後にして直に諸種の學術にのみ其精神を專にする時

は學問は天地の道理を究め世界の利益を興す者にして己の一國のみを目的とするが如きは博愛の主意に悖ると云ふか如き説も生し或は私利私益をのみ目的として國家の隆替は措て顧みざる如き者を生ずるなり古來忠臣孝子にして其父の書に坐し歴史を枕として眠れる者あらず忠愛の志氣は先づ其歴史を尊重敬拜するより始まることなれば國民の骨髓たる學者を陶況する大學に於ては何れの科を問はず通して我歴史を課し之を尊崇し之を信敬し卷を繙くに中りて既に已に衆生一躰に低頭拜首するの習慣を作りたきことなりされは全國一般に國家の躰相を重ずるの風自然に發生して其向ふ所を誤らざるを得べし我國の昌盛天壤と窮なく邦家の基礎鞏固にして宇内萬國に凌駕するの日あるを期せんとするは先づ其本を考ふの急を務め國民の精神をして腐敗せしめざらんことを注意せざるべからず故に先づ大學を於て各科皆歴史を課することを定め延て中小學等一般の教育に皆我宇内無比なる神聖歴史を講ずるを以て學問の基礎とするに至らしめたきとなり

重野安釋曰く日本を知らんと欲せば日本の三大著述を知らざるべからず一に曰く舊事紀二に曰く古事記三に曰く日本書紀是れなり悉く是れ世界に誇るに足るもの

井上圓了曰く愛國の精神は其國古來の歴史を知り其國體を明かにし以て其昔時を思ひ祖先を慕ふの情義より起る者なり我國の如きは殊に然りとす故に上は皇室を始め奉り一般人民に至る迄祖先崇拜の風あるは我國民に尊王の感情の深き所以にして忠臣孝子の多き所以なり我等は永く祖先を崇む血統を重んずる國風を維持せざるべからず

細川潤次郎曰く神代の事蹟は固より神異にして律するに尋常勸懲の道を以てすべからざる者居多なりと雖も其歴史の部分に屬すべき者亦少しとせず若し並せて之を塗抹するときは後世の人何に因て開國の事蹟を知るとを得ん彼西土の書經の堯典に始まり春秋の魯隱に始まる如きは未だ俄に據て以て後世修史の例となるべからず司馬遷の史記は五帝本紀に始まりて其中に怪誕の事多しと雖

も其良史たるに害あらず蓋し修史者は古來相傳の説を載せて以て後世に遺すものなり宜く其説の神異に涉るを以て忌て之を録せざるべからず忌て之を録せざるときは古來相傳の説此より全く古昔の事蹟得て知るべからざるに至らん

星野恒曰く神代の事蹟は神怪不可思議の條件多きも其學を爲す者は皆之を神業に歸し人の研究討議を許さず去れ共古書の所謂神なる者は鬼神の謂に非ず其徳を尊崇して最上至極の稱を以てする者にして漢土の所謂神聖と同義なれば其内人理を以て推論すべき者なきに非ず苟も誠實尊崇の心を以て恍惚怪奇の雲霧を排き其盛徳大業を表彰せんは禁止の限りに非ざるべし

内藤耻叟曰く余嘗て新井君美の古史通を讀て其大意を商量するに神代の事實を神奇にせず専ら人事に近く尋常にどきなしたるとは誠に卓見と稱すべし凡尙古、事の奇怪不測多きは何れの國も同くして其世に生れし人の開明ならざる智識より言傳へれるとなれば今日に於ては實に益なく世の教とすへからざると多きは固より當然のとなれどもを一々尋常の人事に引あてんとして更に牽強附會してあらぬ事まで論説するは或は矯枉過直ともいふへく寧ろ古人の傳説は其儘にして強て之を説かず只其信すべきを信して其他は疑しきを傳ふるこそ古史を讀む人の本意なるへければ強て之を平易にせんとして誣言するはなか／＼に古史通とはいひ難からん然れども古史は悉く信すべきものとして一言一句も改めず是れ即神の事なり神の事は人の疑ふべきとにあらざると一々之を信せんとするには遙にまさりたれども其失する所は又同じくして共に正中を得たりと云ふべからず但其注文の第一に神とは人なり我國の俗凡其尊ふ所の人を稱して加美と云ふ古今の語相同してれ尊尙の義と聞えたり今字を仮用るに至りては神と記し上と記す等の別は出來れりとあるは誠に至當の解と云ふへしかくありてぞ我國古の神の正しく人にてませしとも明にして外國の太古の王ともを牛首蛇身など云へる類にあらざると明白端的なるをもく我國の天祖皇祖は皆此國に生れ

玉へる人にて皆是今日の人に異ならず少しも怪しきとあるへき理なし唯其時人の之を恐れ尊む餘りに種々の怪誕を傳會せしは今の邊土僻地の人情に徴して知るべきとなり然れば神と云ふは上と同く上頭にます尊き人をいふとにて後世に頭といひ髪といひ長くも今の天皇陛下を御上と申上ると少しも異なるとなしざるを後の文字を仮りて神とありしより其神の字義に拘泥して之を漢土の鬼神に比況して種々の考をなすは皆妄謬なり若し古書にカミを上字を用ひてあらんにはかゝる妄説は起らざりしならん我神は則ち人にして決して彼土の鬼神など云へる怪物にはあらず小中村清矩曰く神道なる者固より經文もバイブルもあるにあらず祖先の仕來りを奉ずる迄にて純粹の宗教と稱すべきものにあらざると雖も矢張り其所作は幽冥の間にありて幸福を求めんとするにあれば之を宗教と稱すも亦可ならん古代本邦人か奉せし神の性質を調へんには古事記日本書紀の神代卷に尋ねべき事にて此二書は神道家は之を視ると經文の如くするものなり然るに古代の傳記に怪事多きは何の國も皆同し事にて彼の耶蘇教徒か奉ずる創世紀の如きを見ても知るべし田口卯吉曰く先代舊事本紀の偽書なりとして排斥せられたるは本居宣長の古事記傳を著し、以後の事なるへし然れども宣長と雖も悉く排斥したるに非ず宣長曰く「古事記傳卷之一」「但し三の卷饒速日命の天より降ります時の事と五の卷尾張連物部連の世次と十の卷國造本紀と云ふ物と是れ等は何書にも見えず新に造れる説とも見えされば他に古書ありて取れる物なるへし」と故に此點に於ては宣長も信を置きしなるへし然るに爾來此書は全く信を失ひ人の之を顧るものなし是れ正當の觀察にあらざるなり古昔にありては先代舊事本紀は決して斯くまで信用なきものにはあらずりしなり後世添加せし文も多かるへし然れども其本文は必ず日本書紀以前になりしものと思はる且夫れ上代日本書紀及古事記に因りて解すへからずして舊事本紀に據りて解すへきもの頗る多し而して其事實は決して後世の推測に成りしものとは見るへからず然らば則ち此書豈に悉く捨つへ

けんや

増田子信曰く支那にて孔子の修述したる教育書なる六經は過半は唐虞三代の歴史なり而して彼の論語は即ち道德の道筋を示したるものなりまた釋迦の説法したる諸經は學説を把りて歴史に託したるものなり耶蘇の經典亦然り是れ皆古の聖人教育には學理のみにては人民の了解せぬとを悟りたれば斯くは何れも歴史より説明したりけむ我國古代の歴史は即ち我國の經典なり六國史中歴代の詔勅を聚むれば以て書經たるべく古事記以下の歌謠を摘めは以て詩經たるべし況んや開關以來の事實は一貫して天祖統を垂るゝ所の書き様は春秋よりも嚴正なり誰か我國に經典なしと云ふや扱經書は如何なる利益を社會に與ふる寶典かといふに是れはもと道德を教ふるものなり之を擴めては政治家の參考にもなり經濟家の心得にもなり又文學技藝の助けにもなるなり

前田慧雲曰く大乘結集は小乘結集と同處なるや異處なるや明瞭ならざれども法苑義林章二本等の所引に依れば智度論には大乘經は鉄圍山に於て阿難文珠等編集せり云へり明に大小乘の結集を異處とするなり金剛仙論第一にも亦同く大乘の結集處を鉄圍山外となせり其他種々異説あれども常識に依て見れば頗る荒誕奇怪に類し輒く信じ難し(中畧)現行の諸大乘經其者を以て第一回結集當時の直寫的筆録なりとするの意なりや如何といふに此問題に對しても余は亦決して然なりと答ふる能はず思ふに第一回の結集は極めて質實素朴なる講話のものにして現行經典の如き美麗瑰奇なる文學的のものには非らざるへし現行の大乘經典は總て皆後世の述作ならんのみ蓋し佛滅後第三世紀頃印度文學か最も全盛を極めたる當時に在て大文學者の手を借て編述せられたるものに非らざ歟其梵本か皆サンスクリット語を以て記せられたるは蓋し職として之に由るなるべし

レツグ曰く古代の書にして必要なること易經(六經の一)に踰ゆるものはなかるべし此書の基源は遠く紀元前三十世紀伏羲の時に在り然れども當時は單に八卦六十四爻ありしに止れり所謂卦爻は



一、の如き一は連続し一は中斷せる横線を重ねたるものにして周朝の興れる以前には此線畫に就きて一の説明もあらずき夫子の所有せし易經は韋革を以て編せしか反覆卷舒せしか爲め三度編を絶ちしといふ天子の言に曰く余に數年を加へて五十にして易を學は、以て大なる過失なかるべしと此書は古代より卜筮の書として傳はりしか爲め幸に秦火の厄を免れ今日完全に儼存せり此書は伏羲の卦爻によりて物質的世界現象の原理并に道德上及び政治上の原理に説明を與へたる書なりと稱せらる然れども此書の語句は大抵謎語に似今日刊行せる書には皆夫子の加へし註釋を添へざるはなし茲に一事の奇と稱すべきは夫子は正にピサゴラスと東西時を同ふし而してサキヤン哲學者の遺編を見れば數の分子を以て實體の分子なりと爲し其說驚くべく易經と一致せり然れども支那の批評家も西國の漢學者も此書に於て未だ十分満足すべき解説をなせしものあらざるなり  
 フアルケ曰く佛書は釋尊入滅後八十年の頃既に其門徒にして教祖一代の言行を筆述せんと企つる者ありしは歴史の證する處なり然れども其教化事蹟の大部部が書冊文字によりて世間に流布するに至りしは實に降て數百年の後でありとす其間は單に耳承口傳によりてのみ保持せられたり其記憶の力も亦驚く可きならずや後教祖金口の說法に關しては門内異義競ひ起り黨を作り派を立て紛々たること亂麻の如くなるに及び時の國君にして佛法歸依の善男子たる大王アシヨカ源頭彌々遠くして末流の分派益々多く大法遂に滅して衆歸着の津を失ふに至らんを憂ひ勅して多數の聖衆を招集し貝葉を精撰して金文を筆寫せしむ口授無形の佛法は茲に初めて成文の經卷となれり三藏經典の結果即ち是れなり此一切經を分て三部と爲す曰く經曰く律曰く論各々浩澁を極む其前の一節は原始佛敎の敎相と事歴とを傳ゆる最古最良の書類にして獅子吼音の遺響多く此中に存す第二の律部は沙門の戒行威儀の綱目を擧示し最後の論部は斯敎所立根本の哲學殊に世界の歸趣極地に關する論議なり而かも此後の二部か前一部より後代の發達に出てたる者なる事は又蓋ふべからざる

事なりとす此等の經卷は之を記述するにサンスクリット語流の一派たる梵語バリを以てせり然れどもバリは必ずしも釋尊金口の使用語に非ず只之を以て釋氏所演の金言を翻譯したるに過ぎず然らば釋氏常用の言語は果して何なりしかは吾人遂に之を知る能はざるなり佛祖金口の說法と其所談の義理とを知らんと欲せば一に此藏經に依て視ふの外別に道なし藏經所載の文字が確に佛敎の根本的にして且原始的の敎相を示すものたるや又疑を容れず而かも是れ只比較的の言のみ此藏經と雖も亦必ずしも完全正確の歴史典據と爲すに足らざる者たる事は忘るへからず如來か一代に履行せし生活の事蹟として傳ふる記事に於ても往々後世の佛敎徒が彼の印度人的空想を恣にして徒らに小説的彩筆を奮ひ諸多の口碑的奇蹟的傳説を加ふるに更に誇大の潤飾を以てしたるの跡歴然として争ふべからざるものあればなりコーランは回敎の聖經にして其内容は悉く本師馬哈默か自ら著述する處即ち彼が天帝より直受せしと稱する宣託啓示を口述し尙書をして筆記せしめしものなり而かも只其敎訓垂示を録するに止まり馬氏の行爲に關しては一切之を載する事なし其文体は押韻的にして殊に最古の部に屬するもの、如き之を讀めば殆んど一篇の詩篇を誦するの感あり西曆六百三十二年馬氏の齡盡きて黃泉に赴くや此等の默示録は或は貝葉に或は白石に或は綿羊蹄駝等の革片等の面に書寫したるもの順序なく整頓なく漫然として此偉人か枕邊の文篋中に藏めたりしといふ馬氏の以て完全絶對の妙典と稱すコーランも吾人よりして之を見れば又誤謬の點頗る多しとす是れ馬氏か智識の足らざりしによらずんば非ず例せばアブラハムの子イサクを以てヤコブと爲しアブラハム。イサクを献するの條を叙するに當てアブラハム。イスマエルを献すといひ聖母マリヤをモーゼの妹なりと爲すか如き無智も亦甚たしきものに非ずやバイブルは基督敎徒の聖典にして通常新舊の兩者を合せ稱するの名目なり新約全書は基督降世五十年乃至百年内外にして完結したるの書籍なり斯書か開敎時を去る遠からざる原始時代に於て殊に親しく敎祖演説の法筵に

侍したりし者の手になれりし部分多きに居る事は嘗に基督教神學者の主張する所たるのみならず其弘通するに否とには敢て痛痒を感せざる學者若くは更に却而基督教を非定する學者と雖も亦等しく其好史料たるを是認する所なり之か完結を告ぐるに至りしは紀元後百年の上に出ると雖も其大部分は確かに半世紀以内に完成せられ基督教なる一新宗教の開基を目撃したる人が手自ら之を筆證する所あるも亦明白なりとす彼の破耶蘇教學者として有名なる佛のレナンの如きも新約全書を以て基督教の初代及び第二期時頭の事蹟と傳説とを集録したるものなり云々といひしを見ても亦以て之か史料として價値を知るべきなり

又曰くサイデル博士一流の學者が夙に唱道したりし如く福音書所載の記事中には佛書所傳の釋氏の事蹟と二者甚だしく其趣きを同ふするものありて存するなり而して其符合の著しきや彼の二百年前の儒者新井白石をしても容易く之を認識するを得せしめたるを見ても知るべし「新井白石曰く(前畧)今エイヌスが法を聞くに造像あり受戒あり灌頂あり誦經あり念珠あり天堂地獄輪廻報の說ある事佛氏の言に相似すといふ事なく其淺陋の甚だしきに至りては同日の論とはなすへからす云々」否白石にして尙深く考究探索する所ありしならば更に一層多くの類似點あるを發見し益々其持説の確證と爲したりしや論なく嘗にエイヌス(イエスを指す)降誕の初種々の瑞應あり自らデウス(天主を指す)と稱せしと云ふの類釋迦文生れて種々瑞應を現し自ら稱して天上天下唯我獨尊と云ひし事の如く其磔殺せられし後に蘇生して其母に見えしといふの類小輩曇賊せられ木其身を貫き立て、以て標となす大輩曇其血を取りて人となせしと云ひし事の如く云々の言に止まらざりしや必せり請ふ少しく其類似の點を説かん佛書には相成道なるものあり其第一に曰く釋迦過去世に迦葉佛に値ひ其弟子となりて人間生を離れ即ち兜率天に生して百劫の間諸の相好を種々衆生の根熟する時を鑑てまた兜率天より中天竺摩訶陀國の淨飯王宮に生ると是れ豈に福音書中耶蘇降

誕の次第に似たらすや其生を摩耶夫人の母胎に托するといふ者處女マリヤ受胎の談に似たらすや釋尊誕生の時諸天歡喜して空中に奏樂散華するは耶蘇の降誕を雲漢に祝する天使神軍の讚歌にあらずやバラモンの僧アシタ仙人か悉多太子の未來を相するは長老シメオンか赤子耶蘇を抱て宮中に爲せし豫言にあらずや釋曇の少時罪惡の塵に染まざりしを云へは耶蘇も亦然りしなり釋迦嘗て見失はれて踪跡を失し後直ちに發見せられし幼年の事跡を有すれば耶蘇亦幼時父母に伴はれて神殿に參詣し歸途群衆の中に混雜して暫く見へざりしと云ふの條と相同し釋尊尼連禪河の邊に至りて菩提の樹下に端座し思惟六年艱苦具さに嘗む一夜忽焉として無上大覺の道を成す而かも直ちに出て、傳道の事に従はず尙禪定三昧の座にあり謂へらく我何等の法を説てか當に衆生を度すへきと此念を作して黙止する事三七日なり是れ豈に耶蘇かヨルダン河畔に洗禮を受け天音其神品を證して附囑するに生靈救済の大任を以てしたるも尙直ちに宗教的事業に従はず暫く退て冥想の野に在りしと云ふに相應せずや世尊成道の後三七日思惟の座にあるや諸の魔兵魔軍競ひ集つて種々の障rierを作す如來時に大禪定に入て威神力を現し八千億の魔衆を降して悉く退散せしむるは耶蘇か受洗の後暫く退て五八の晝夜冥想斷食の野にある時魔將來て彼を誘ひ利と欲とを以て其心を魅せんと欲したるも而かも耶蘇金剛の信力と敬虔の赤誠とを以て皆悉く之を退散せしめたると何ぞ夫れ事の相似たるや十方の諸佛現前して善哉釋迦文第一の道師なりと讚嘆するは一天之か爲めに開けて是れ我心に適ふ我愛子なり衆生之に就て其教を守るべしとの神勅と何ぞ其趣きの相同しきや其他或は門弟を撰拔し之を遣はして傳道せしめ或は無妻孥貧困の形相を以て四方に流通し法を説き道を傳へ善徳を修め奇蹟を行ひ時に病を醫し時に死を蘇らす斯の如き者を逐一數へ來らば日も又足らざらんとす佛罪障深重の落婦と語を交へ之を誨へて成佛せしむれば耶蘇また之と同一の事を爲して信仰の徳を勤む耶蘇井邊に在りて一女子に法を説けは佛亦同處に女人を度す殊に大

の慈悲願一切衆生の苦を抜て万民平等の樂を施すを以て開教終局の目的とするか如き兩々皆て相悖る所なし只何を以て樂と爲し將た何を以て苦と爲すか換言すれば其所謂拔苦與樂の救済とは抑々何を意味するの問題に至りて大に其趣きを異にするのみか佛教に在りては自家の我性を斷却して寂滅爲樂の虛空に消へ去るを以て最高の法樂と爲し我基督教に在りては神人永恒の一致より生ずる圓滿無上の大安神即ち之を無上の幸福と云ふなり(中畧)而して若し基督の門弟子にして故らに其祖師の經歷中神變奇怪の事跡を附會せんと欲したりとするも敢て佛教所傳に倣ひ將た其所説を剽竊するの愚と煩とを學ばさしや疑ひなし何となれば彼等は遠く其範を印度の古譚に仰ぐを要せず近く彼等が父祖傳來の聖經舊約全書中に充滿する古豫言者の言説若くは猶太の國民的救済主思想の裡に溢然として豊富なる材料を有すればなり梅花庭前に發して馥郁たり豈に又春を野外に向て遠く求め去るの愚を學はんや然り新約の一書は決して佛教の感化を受けて成しものに非る也

### 宗教の必要

大國主尊は顯露の事は皇孫當に治むへし幽事は吾之を治めんと云へり又幸魂奇魂の事を説けり幸魂奇魂は一名を和魂荒魂とも謂ふ此顯露と幽事とは西洋の哲學者ハルトマン。スベンサー。シヨツペンハウヘル等の所謂現象界と實體界なり王陽明の所謂理と氣なり佛教の所謂色と心なり又此和魂は孟軻の所謂良心なり王陽明の所謂良知良能にして荒魂は種々氣の爲めに動かされたる所の知能なり世人宗教と云へば幽冥の事のみを説くを以て本分の如く思ふ者あれと宗教は決して此の如き狹隘のものにあらず形而上は凡て宗教に屬し形而下は凡て科學に屬す此二者を學はしむるものを教育と謂ふ宗教の科學に於けるは精神の身体に於けるが如く如何に身体美麗なるも精神なければ枯木に異ならず而して宗教の本旨は形而上は係る百般の原因結果を明かにして迷を轉し悟を開かしむるに在り然るに方今の宗教家は神儒佛耶を論せず其本旨に反し徒に呪術、託宣、御圖、卜筮、墨色、九星、五行、幹

枝、方位、鬼門、其他吉凶禍福を説き(余は明治十六年に萬國總鑑三十卷を著し其卷の二十五破惑篇に和漢洋の哲人君子が所二十六年に至り博士井上圓了が怪妖學講義録を著し迷信を破るべきものを蒐集して其後迷信を破りたる者を蒐集しつゝありたるして細大漏さざれば余は之を中止せり今日宗教改革の第一着は迷信を破るにあり)世人を迷はし小にしては一身の發達を妨げ大にしては國家の事業を害すると慄からず畢竟迷者の多きは教育家か宗教を教育界より除去りて宗教の本旨を知らしめらるるに職由す政治家は法律理財に通するも宗教心なければ刑罰を嚴く租税を重くして苛刻の事多く遂に禍乱を惹起さしむるか如き事あり法律家は法律に明かなるも宗教心なければ成文にのみ拘泥して事情を斟酌せず或は賄を受けて法を曲ぐるか如き事あり軍人は作戰計畫に長するも宗教心なければ部下を收攬する能はず又一個人の行爲よりして軍隊の名譽を毀損すか如き事あり教育家は學藝に達するも宗教心なければ子弟の教導を誤り道徳を顧みざるか如き事あり醫士は施術に精しきも宗教心なければ患者に對し不親切なり又他人の妻女に接近するを以て醜行を爲すか如き事あり商業家は買買に敏きも宗教心なければ價を二つにし又魚惡なる物品を販賣し外國に於て輸入を拒絶せらるゝ如き事あり工業家は技術に巧みなるも宗教心なければ將來を顧みず設計建築を粗漏にし大害を醸すか如き事あり故に方今の急務は荒誕なる宗教を改革し眞正なる宗教を普及せしめ道徳を勸むるに在り自から文明を以て誇る歐米の如きも宗教の必要を認め英國に於ては宗教家は官吏の待遇を受け殊に「カンターベリー」大教正は國中の至高官吏としてロード、チャンセロル(高等法院長の如き者)の上に列し又大教正二人教正二十四人は貴族院の議員たる資格あり佛國に於ては宗教家に對し各町村は其住宅并に宗教に關する費用を給する義務あり又大教正及ひ教正は國庫より相當の俸給を受くる權を有し各軍隊には一人の布教使を置くといふ獨逸に於ては教正を養成せん爲め大學に神學科を置き國費を以て之を維持し教正は官吏と同一の待遇を受け埃國に於ては宗教家は其修學中徵兵を猶豫し卒業後後備役に編入し官吏と同一の待遇を受け戰役中は從軍布教使を命せられ大教正七人は貴族院に列席する權を有し其他宗教上顯著なる功績ある者は貴族院議員に勅

選せらるる伊國に於ては教主は神聖にして侵すべからず教主に對し危害又は不敬を加へたる者は總て國王に對する罪と同一に罰せらるる政府の官吏は其職務を執行する爲めと雖も教主の宮殿及び教會の席場に進入するを得ず自其義に於ては宗教家に對し各町村は住宅を供し會堂の建築修繕を負擔し米國に於ては万物の創造者たる天帝の存在を信し之を敬するは各人の義務にして此信仰は最良の國本を爲すものなりと「ニューハムシャイア」「マツサキユセツツ」「コンネクチカッツ」「バーヂニヤ」「テルウエア」の各州は憲法を以て宣言せり又天帝を信せざる者に對し「北カロリナ」「ペンシルバニア」「メリーランド」「テンネッシー」の各州は官職に就くことを禁せり又合衆國の議院は開會の時は毎日祈禱を爲すゆゑ兩院に各一人の教正を置き之に俸給を與へ各州の議會も亦之に倣ふもの多し又鐵道會社にては其附近の宗教家には布教の爲め乗車賃を減少せりといふ英國の如きは耶蘇教を以て國教となし議員は議院に於て宣誓を爲す例あり其詞に「余は今上皇帝に忠義を盡し永く皇室の相續權を維持すべし天帝を佑けて其職を盡さしめよ」と曰ふと云へり

中村正直曰く中古英國の碩學者ベーコンは曰く淺小なる理學は人心をして上帝を信せざらしめ深奥なる理學は人心をして天道に歸せしむと亞米利加合衆國を獨立せしめたるワシントンは曰く凡そ國家を福祥に導く所以の諸性情習慣ありと雖も宗教と道德學との二者を以て缺くべからざるの要點となす此二者即ち人生福祉の柱石を顛覆して以て愛國心ありと爲る者は妄なり矣又宗教に原づかざる道德學を以て人民の職分を勸勵し得へしと云ふとは余は道理と經驗とに由て斷じて之を信せず

西村茂樹曰く宗教には荒誕の部あり真理の部あり余か宗教を信せざると云ふは其荒誕の部を信せざるとにして真理の部は固より之を信せり佛教の如きは殊に然り然るに世の佛教を信する者を見るに多くは其荒誕の部を信して真理の部は之を研究する者少なし感へりと云ふべし

又曰く西洋諸國の大學校には皆神學の一科ありて本邦の大學には此科なし夫れ學問に有形の理を講ずる者あり無形の理を講ずる者あり兩者備りて學問の体用全しと言ふべし大學諸學科の内には於て法學理學醫學文學の類は有形の理を講ずる者にして神學哲學の類は無形の理を講ずる者なり無形の理は人の精神の如く有形の理は人の肢体の如し二者の中一を欠くと能はざるものなり哲學は既に文學科中にあるも猶ほ未だ足らざる所あるを覺ゆ愚か切に望む所は大學の學科中に聖學の一科を置くに在り聖學の名は西國の學科に無き所にして今日新に命ずる所の名なり其學科の本体と爲る者は支那の儒學と西國の哲學とを合せたる者にして耶蘇教佛教回々教を以て其附屬と爲す其科目は修身、性理、政事、理財、實際の五目にして修身性理を以て他の三目の基礎と爲す此聖學を以て西國の神學に代へ之を教ふる時は大學の全体大用始めて完全なりと謂ふべし文學の如きは西國の大學に之を置く者多からざれば或は之を除くも可なるべし

井上哲次郎曰く歐羅巴の最も盛なる所は獨逸、佛蘭西、英吉利の三ヶ國て哲學の盛なる國も亦此三ヶ國であるさふして其三ヶ國の哲學者を代表して居る人はスペンサー、オーゴストコント、ハルトマンて其主張する所のものは耶蘇教と併行することの出来ない教であるハルトマンとスペンサーは万有神教である所か耶蘇教は惟一神教である惟一神教と万有神教は到底一致が出来ない惟一神教は世界と神と分たねはならぬ神を別にして世界の上に置くか横に置くか何れにせよ世界の外に置かなければならぬ万有神教では世界と神を一所にして實体世界を神の如くするのであるさうして現象世界は實体世界から發表して來るのである世界が即ち神である神の外に世界はない耶蘇教の方では人間か神と分れて居るやうに世界と神が分れて居る万有神教の方では世界即ち神なりとしてあるだから万有神教の神と惟一神教の神は全く違ひますハルトマンの所謂不覺スペンサーの所謂不可知の人間と一様の性質を帯ひて居りません所か耶蘇教の神は人間と同様の性質を帯ひ

て居てさふして如何なる幽微な處にても其賞罰が行き届くものとしてある然るに万有神教にはさう云ふことはない全くそれと違つた外のこと依りて教を立てるのでありますそれか又万有神教としなければ神は無限と云ふことは出来なくなるなせなれば神と世界が別々になるから神が無限で無ければ即ち有限であつて智慧も思想も慈悲も皆有限がある際限がありては神と云はれぬ其れからして惟一神教である神と世界が互に制限することになる其れだから到底神を無限とするなら万有神教で無ければならぬ管に今日の三國の哲學者を代表して居る者のみならずデョールダノ、ブルノーの如きスピノツアの如き其外さふ云ふ人が多く万有神教を唱へて居りますさうして又支那の儒教の太極も其れに近い太極は即ち實體世界で陰陽五行の作用に依て起るのは現象世界である佛敎に照して言へば太極は眞如と云ふので其れから出づる百般のものが假相である此點に於ては東西の哲學が大体に於て一致して居るのであります西洋の哲學の今日の有様を申せば佛敎の極深い所と一致して居ります

又曰く此オーゴストコントは總て人間の經驗の及ぶ所を學問の區域とした其處は孔子と似て居りまして生前死後のと地獄極樂の與其他總て經驗に由りて確な智識の得られないことは言はない唯々知るべき所の限りだけに學問の區域を立てましたのであります其點だけは孔子と似て居る又曰く孔子の學問とスペンサーと似て居るのはスペンサーの道德主義は自利主義と利他主義と兩立したもので孔子は汎愛と云ふことを云ひまして其事は論語の中にもありますが誰れも彼れも均しく愛すると云ふ主義ではなく墨子の兼愛説など違ひます孝經に己れの親を愛せずして人の親を愛する之を悖徳と謂ひ己れの親を敬せずして人の親を敬する之を悖禮と謂ふとあります自分の兄弟妻子から次第々々に外の人に及ぶ其順序を付けた精神とスペンサーの自利利他を調和した精神と太層似寄つて居ります證の立て方は違つて居りますが歸する所の精神は符合して居ると云は

なければならぬ

北島道龍曰く小生か魯國のペートルスブルヒ府に在る時彼の國の新聞記者を訪ひ國內の事を種々聞くに其人の言ふにペートル大帝か崩御の際太子及び大臣を召され朕は最早死する身なれば一言遺し置くか朕は世界を一握して第一に世界中の言語を同一にし第二に世界の貨幣を同一にして各國人の旅行商業其他總て人民の迷惑を免れしめんと思へり卿等朕が意を體し一代二代にて目的を遂げられれば幾十代に至るも必ず此目的を遂ぐことを努力し忘るべからず其方法は第一開拓(海軍)海軍を利用して國土を第二宗教(外)外に赴き宗教を擴張し第三戰爭なり此三者を以て朕の意を成せよと云はれしと英國の如きも百七十年前宣教師を印度のカルカタ府に遣し宗教を布き其れより商業を開き最後に戰爭を起し遂に日本に二三十倍もある大國の印度が悉く掠られてしまつたのである宗教の力は實に廣大なるものなれば小生は宗教を改良し上は天皇陛下を始め下は吾々人民まで安心立命の地位に立ち二千五百年の御皇統を永遠無窮に護し奉り我國をして東洋の強國なりとて指一本も指させぬ様に相成りたいのか小生の宿願である

渡邊國武曰く藤田東湖は敬神尙武の四字を以て建國の大体と爲さんとす時人其迂なるを笑ふ今にして之を思へば海外諸強國の宇内に跋扈するは宗教と兵力とを以て立國の基礎と爲さるものなし先生は實に卓見と謂ふべし

福澤諭吉曰く西洋碩學の説に一國の人心を收攬して風俗を興すの方便は其國々の民情舊慣に従て同しからずと雖も各國に通して利用すべきものは宗教、學事、音樂、謳歌等にして殊に立君國に於ては王室を以て人心收攬の中心たるべしと云へり我日本の如きは古來宗教に拘泥せざるの民俗なれども僧侶の一言を以て兵刃既に接するの戦を和解したるの例なきに非ず歐米諸國に於ては其宗教を以て國事に利したる例甚だ少からず英國に於て千六百年代コロンウェルの乱に國中の人心劇

烈の極點に達して當時議事院の如きは左右兩黨に相分れ相互に疾視咆哮して其劇論の底止する所を知るへからず人をして寒心戰慄せしむる程の情況なりしが時に一老僧の勸めに從ひ急に席を改めて上帝禮拜の式を行ひ然る後に座を定めて更に議事を開きしかは滿場自然に和穆の氣を催して穩に議を終りたるとあり爾後英國の議事院に於て開議の前必ず禮拜の式を行ひ今日尙其例に依ると云ふ

又曰く亞米利加合衆國にては宗教も自由にして政府に人を用るに其宗旨を問はずと雖も武官に限り必ず其國教なる耶蘇教宗門の人を撰ふといふ蓋し他宗の人は兎角世間に輕侮せられて軍人の心を收むるに足らざればなり

小崎弘道曰く歐米諸國の教育制度を見るに何れも德育を最も重し宗教と親密なる關係を有せしめ宗教々育相待て德育の實行を期せざるは無し米國には三百有餘の大學高等學校あるが其内十數校を除くの外何れも私立に係るものにて私立學校は一二を除くの外或教會に關係を有し宗教を以て其德育の本と爲さざるはなし是等の諸學校に於ては先づ其校長に其教派の宣教師を擧げ専ら宗教德育の任に當らしむるは勿論生徒一同は毎朝會堂に出席し神に禮拜祈禱をなし日曜日には生徒の爲め特別な説教を爲す又州立若くは官立の學校に於ては宗教を以て德育の根本と爲すは同様に毎朝の禮拜祈禱日曜の説教等を爲すは私立學校と異ならず唯々生徒の必ずしも其禮拜説教に出席すべき責任あらざるのと別あるのみ又陸海軍學校に於ては其教師を定むるは其教官多數の意見に依るとなるか宗教を以て德育を施す一點に於ては他の學校と異なる所なく(中畧)英國の大學は全く宗教主義を以て立ちたるものにて彼のオックスフォードの如きケンブリッジの如き幾ど一種の寺院なるか如き觀ありて其教育は宗教德育を主とし其儀式禮典皆宗教的ならざるはなし(中畧)獨國の大學にては孰れも神學の學科を設けざるはなきのみならず之を以て常に分科大學の首

位に置けり又中小學にてはルーテルの信仰問答を以て道德宗教々育の教科書と爲し何れも宗教を教へざるはなし如何に同國にては宗教々育に重きを置くかは同國教育の事情に通せるもの、能く知る所なり(中畧)佛國は宗教と教育とを分離したるも同國の教育主義必ずしも非宗教的といふへからず同國文部省にて同國の學士會院の會員たるジャネー氏に依頼して倫理學の教科書として編纂せしめたる倫理書を見るに宗教に關する事柄を掲ぐるのみならず其倫理は宗教に本くものなりと云つて不可なし

又曰く近時の大統領ガーフィールド・ハリソン・クリーヴランド・マッキンレー・ルースウェルト等何れも篤信の信徒ならざるなきは最も注意すべきことなり英國にて近時死亡したる第十九世紀の大人傑グラドストーンが最も熱心の基督教信者たりしは何人も之を知らざる者なかるべし彼は政治家と云ふよりも寧ろ宗教家と云ふべき人にして其著述も宗教的の者多しとす又現今の保守黨内閣の首相バルフォールは最も熱心なる信徒なるのみならず哲學及び神學に堪能の人なり彼が一千八百九十五年に著したる「信仰の基礎」たる書の如きは哲學界並に神學界に近時の好著として厚待せられたる者なり

澤柳政太郎曰く今日迄私の経験した所では學生の宗教に傾いた者て教育上差支を生じた者は一人もなきのみならず却て品行か方正に思想か高尚て教育上に利益を與へる方だから私は其基督教たるを佛敎たるに論なく其信仰を獎勵致しました

元良勇次郎曰く日本現時學生の宗教心に關する調査を爲すに大學の法醫工文理農の六科高等學校六校と其醫學部五校高等師範學校高等商業學校工業學校早稻田專門學校札幌農學校慶應義塾大學部學習院高等科京都大學との學生中に宗教を以て絶對的に不必要なりとする人は僅かに大學に於て十三人高等學校に於て二人同醫學部に於て一人其他の學校に於ては皆無にして總計十六人に過

外山正一曰く余は固より我邦人の耶蘇教を信せんことを憂ふる者にあらず特に之を信する者其信薄きを憂るなり佛にまれ孔子にまれ耶蘇にまれ眞に之を信し其説く道に能く従ふ者は余の常に見るを歡ぶ所なり

和田垣謙三曰く人間の道德も東洋とか西洋とかいふ區別を去つて世界的のものにならんければいかん万国公法のものにならんければいかんのだ勿論同じ道德を行ふにも其手段や方面は一様でない慈善を行ふにも其家風は由りて乞食に錢を與ふる者もあれば孤兒院救貧院等へ寄附する者もある通り一國にも其特別の風といふものはあつて然るべきだが其根本に於ては同じ事なくてはならん即ち世界には道德に付ての公論といふものがある儒教でも佛教でも耶蘇教でも博愛といふやうな德義に付て誰か否んで居る者があるか此公論こそ即ち宗教聯合の基礎となるべきものならんたかくて宗教家か能く時運に順ひ其潮流に乗して同盟一致の運動を取つたならば茲に三大宗教は各々新なる生命を得て人類德義の發達上大なる効績を擧ぐるとか出来る

村上專精曰く倫理の宗教に關係あるとは婦の夫に於けるか如きものなるが故に國民の倫理を正しこれを鼓吹せんとするには宜しく宗教の改革を爲さざるへからず宗教の腐敗するあらんか隨ひて道德も正しからず宗教眞正ならんか隨ひて眞正の道義行はれん而して今や日本宗教の現況如何眞正なる倫理道德を鼓吹するの父母と恃むに足る乎父母と恃むに足らざるも良友として互に扶助するに足るべきものなる乎余は大に其答辨に苦しむものなり余は社會改良論を聞き又道德問題を聞きしと同時に宗教の現狀革新問題を連想せざるとなし

又曰く下田歌子女史か淺草別院内貴婦人會の席上に於て一場の演説を試みられたか其時に「私は幼少の時より佛教には縁がなく全体宗教には縁薄い方であり一時は宗教は教育には要かないのみ

てなく却て妨げになるものではないかと思ひました程でありましたか昨今私の研究して居る所は國文であるか段々深く研究するに及んで佛法には少なからぬ關係があることを知りました換言すれば其國文は佛敎と漢字とに非常に恩恵を蒙つて居ることを悟り又先年西洋へ教育視察に派遣せられた時に能く其實況を調査して見ました西洋各國何れの邦の道德も宗教に一任せられてあることを悟り智育の妨害にならぬ限りはヨシ迷信と雖も道德を無視するものを教へるよりは宗教によりて道德者を教へる方が國家の爲てあらうと思ひました然れば我邦維新以後の教育は宗教と全く分離せしむる方針を取りつゝあるか是れは歐米各國に例がなく我邦歴史にも其例かない事である」とて頗る慷慨の説を辯せられました此等は一部の人々の意見にしか過ぎませんか教育の一部たる德育は宗教に托する方法を講せる有力なる議論になつて來たのは事實であらうと考へます

中篇終

# 日本太古史

石川利之著

## 下篇

### 教育勅語の正解

祖宗の遺訓は神道に據り儒佛の未だ入らざる前にも忠孝節義と博愛公益の教あることを明かにす

朕惟ふに我か皇祖皇宗國を肇むること宏遠に徳を樹つること深厚あり

藤田彪曰く我邦上古より朝鮮唐土天竺等より貢献來朝歸化したる者其數幾許なるや勝て數ふへからず一朝事有りて矛を海外に嚮れば其風を望み戰はして降りたる者あるは天祖以來内は庶民を子とし外は遠人を柔したるに職由す吉見幸和曰く萬國一土塊で其中我國に君と云があれは最早異國に君と云者は無ひ筈孔子の詞にも天に無二日地に無二王と云れたれども能合點せられたものう天に二の日か無ひからは地に二の君は無ひ其故唐ては君か替りて昨日迄土民なりし舜も天子に爲り臣下なりし湯武も君と爲る其から三十何人と云者



か皆君を弑して天子と爲る天も其れに應し人も其れに與してあるか元來ハヘ  
スキの君と云者か無き故なり其筈なとそ地に二の王は無ひ筈日本に君か御一  
人あれは最早他の國に無き筈あり其か何とあれは天の日神か人と化生して天  
照太神と爲り玉て我國の君と爲り給ふ故なり其故神武天皇の御詞に「我は是れ  
日の神の子孫なれば日に向ひ虜を征するは此天道に逆ふあり云々」あるを實に  
難有事をかし(中略)然らば此神武帝の御詞一言大切あることとて神道たる眼力は爰  
てある此御詞か何時にても立て居る天照太神の「天壤と究りなき」の御一言末世  
まで貫てある爰等を我道の尊嚴なることを覺悟すべきなり

加賀美光章曰く本邦世祚の隆あると赫として猶日月の天に麗くか如し西土國  
姓の屢と改ると猶寒暑の時あるか如き乎要するに亦天の然らしむる所にして  
豈人力の能く爲す所ならん哉然れども天に二日なきを以て之を觀れば吾國の  
道は豈専ら天道の常を得たる者に非ざる乎諸れを宇宙に推すに孰か敢て之を  
仰かさらん

石川義形曰く君に純正の君あり假立の君あり天命を承け天位を踐み天職を行  
ひ萬世一系にして變るふとなき者を純正の君と云ひ即ち天下の王あり暴を除

き民を救ふを以て名と爲し又寡婦孤兒を欺き其位を篡奪する者を假立の君と  
云ひ即ち一國の王なり假立の君は子孫其位を踐むと雖も二三十世に過ぎず今  
天下に王たるへき者を求めは萬國廣しと雖も我王室を措て他に得へからず故  
に魯のペートル佛のナポレオン萬國を統一して天下に王たると企てたるも  
天之に與せされは遂に其意を果す能はず他日我か王室より萬國を一統して天  
下に王たらんと欲する者出つれば天必ず之に與せんペートルは萬國を一統せ  
しめんと子孫に遺訓したれと萬國を一統するは魯國の任にあらすして我か國  
の任なれば我か臣民は其志無くんはあるへからず

中村正直曰く皇祖皇宗とは伊弉諾伊弉冊二尊、天照太神、神武天皇及び崇神天皇  
垂仁天皇、應神天皇、天智天皇等あり

利之曰く伊弉諾伊弉冊二尊は八洲六島を造り天照太神は三種神器を皇孫に授  
け臣民には衣食住の道を教へ神武天皇は四海を平定し皇祖天神を祭りて大孝  
を申へ崇神天皇は神を敬ひ業を勸め就中數多の船を造り海運を奨勵し且四道  
に將軍を置き垂仁天皇も亦神を敬ひ八百餘ヶ所の池溝を開き灌漑を便にし又  
野見宿禰の奏請を納れ積年の弊習ある殉死を禁し之に代ふるに埴にて造れる

人馬を以てし宿禰には土師の姓を賜ひたり是等の大業は即ち國を肇むること  
宏遠に徳を樹つること深厚と謂ふべきものなり

又曰く魯のペートルは萬國を統一して政教の二大權を握らんとしたるも其志  
を果さずれば其子孫に遺訓して萬國を統一せしめんとすと萬國を統一する事に  
就ては魯國の任にあらすして我邦の任なる事は先人既に論しあれど萬國の宗  
教を統一して其大權を握るも亦我邦の任かり故に米國人フエノロサは日本は  
一方に支那印度の宗教の傳統寶庫を有し一方には直接に西洋の文化思想に接  
する事か出来る是れは日本人の非常なる特權にて此の如き好地位を史上に占  
めて居るものは古來無い實に千歳の一遇なりと云へり故に其大權を握らんと  
する者は萬國の宗教を一致して其粹を抜き以て世に立たざるへからす徒らに  
一種の宗教に拘して其宗教を萬國に弘通せんとするは恰も舊製の火繩打の鐵  
砲又は鎗薙刀等を以て精銳ある兵器を持せる萬國の兵を征服せんとするに異  
ならず

我か臣民克く忠に克く孝に億兆心を一にして世々厥の美を濟せるは此れ我か國  
體の精華にして教育の淵源亦實に此に存す

藤田彪曰く素盞鳴尊蛇を斬て劍を獲以爲らく是れ神劍なり宜しく之を私すべ  
からすと大己貴神其平國の矛を献するや曰く天孫若し此を以て國を治めば必  
當に平安あるべしと是時に於り素盞鳴尊は罪を天祖は獲大己貴神は將に國を  
天孫に避けんとす而して曾に朝廷を怨みさるのからす乃ち其寶器を献じて以  
て奉上の誠を輸す其忠愛の厚き何如ぞや

會澤安曰く昔は天祖神道を以て教を設け忠孝を明にして以て人紀を立つ其万  
世を維持する所以の者固より既に瞭然太古に始て無窮に垂れ天孫奉承以て皇  
化を弘む天祖設教の遺意に非ざるはあし太祖征戰毎に神威に仗り以て武功を  
成す中州を定むるに及び靈時を鳥見山に立て皇祖天神に報じ以て大孝を申ふ  
井上圓了曰く世間の衍義即ち通義の解釋にては勅語は忠孝二道を以て眼目と  
し神髓とし骨子とし所謂忠孝爲本の道徳を詔らせ給へるものなりとなすも余  
は是れ勅語の表面の聖旨にして裏面の御深意にあらすと恐察し奉る其故は忠  
孝二道の教は西洋には或は之なきも東洋にありては支那も忠孝爲本朝鮮も忠  
孝爲本にしてすべて儒道の教ふる所は皆忠孝爲本なり印度に至りては忠孝爲  
本とは言ひ難きも佛教が世間道として我邦に傳ふる所を觀るに矢張り忠孝爲

本なりされば忠孝爲本の道徳は日本特有の人倫にあらずして寧ろ東洋共通の倫理と謂ふべし然るに我邦に於ては古來一種特有の道徳ありて一種無類の國躰を維持し來りしことは古今の典籍及事實に徴して明々白々疑ふべからざるものあり故に勅語の御深意は東洋共通の孝忠爲本にあらずして我邦特殊の道徳を詔らせ給へるものなりとは余が竊に窺ひ奉る所なり勅語に就て余が所謂玄義を述ぶる前に我邦に果して一種特有の道徳ありや如何を考定する必要あり其文證は數百の中に散見するも余が特に此點に意を注ぎたるは管公の遺誠なり凡神國一世無窮之玄妙者不可敢而窺知雖學漢土三代周孔之聖經革命之國風深可加思慮也此所謂玄妙なるものは万國不通日本特有の點を意味すること  
 は問はずして明かあり即ち其意たるや我邦には一世無窮の國躰あり其國躰の由て起る所以に至りては實に深遠幽妙にして支那の書を読み孔孟の道を學ぶも到底窺ひ知るべからずと誠められたる語あり是に由て之を考ふるに我邦に一種特有の道徳あるものと推知するに餘りあり又管公の遺誠に凡國學所要雖欲論涉古今究天人其自非和魂漢才不能闕其間奧矣とあり此一章を讀みても我邦に深遠幽妙なる一種特有の道徳あるものと窺ひ知るべし是れ余が我邦の道徳

は忠孝爲本の外に一種の玄妙あるものありと信する所以なり斯る特有の大道あればある特有の國躰の存立を見るなれ國躰は果にして大道は因なり因果共に特有なりとは余が平素自から信じ且つ専ら唱ふる所あり此所謂玄妙にして且つ特有なる大道は古來之を何と名けしや余未だ其名を知らず若し之を精神の上に考ふれば一種特有の元氣にして之を和魂又は日本魂と云ふ然るに此精神が外に向て發する場合には其名を何と云ふや例へば此魂が皇室に對する場合には其道を何と名け來りしや之を單に忠と云はんか忠の名は外國に通ずるを以て日本特有の道徳を示す能はず余は是に於て之に與ふるに絶對的忠の名稱を以てす之に對して外國共通の忠は相對的忠と呼ぶなり相對的忠にありては忠は孝に對し孝は忠に對し忠孝對立するものあるも絶對的の忠に於ては忠孝相合して一とありたる高遠玄妙の忠にして其中に相對的忠孝共に融和して存するものを云ふ

又曰く神道は言ふに及ばず我邦特有の道徳たる絶對的忠孝の大道を傳ふるには神儒佛三道が最も適するものと明かありと知るべし

湯本武比古曰く吾か邦の學者は殊に上古の事蹟を究めざるへからず是れ皇統

の由來する所神器の由りて傳はる所國之粹民之精の由り基く所なればあり教育者は之を殊に研究せざるへからず教育の淵源する所は則ち神代に存すれはなり吾か國の教育者か神代の教育を詳にすべきとの必要は獨逸の教育者か埃及希臘羅馬の教育史を研究するとの比にあらず彼等の之を研究する目的は單に當時の事情及び大家の傳を知るに止まれり然れども彼等好て之をなす神代の教育の吾か邦教育者に對する關係は決して斯の如き淺少のものにあらず東久世通禧曰く我が國體の萬邦に特異なる所以は君主ありて而る後に臣民あり臣民ありて而る後君主ありしにあらざるあり我が臣民たる者寤寐の間も此尊嚴なる國體を忘るゝことあるへからず

釋雲照曰く謹て稽ふるに畏くも克く忠に克く孝に億兆心を一にすと宣らせ給へるは國體の精華教育の淵源何ものか此聖訓に網羅し盡くさゝらん然而して其之と一にする所以のもの何ぞや曰く他なし唯皇祖皇宗の遺訓を信奉し唯一の皇道を遵守し奉りて二心なきにありのみ奈何して二心なきをを得るや曰く他なし唯遺訓を信奉するにあり而已竊に惟るに即今の世人は各自か智力の鋒を争ひ募りて我智我見の外更に古聖先哲あるを見ず況んや其眼中神佛幽冥

の畏敬すべきあらむや是れ人々各々己を是とし他を非とするか爲め其心を一にすること能はざる所以なりとす

利之曰く大國主尊國土を奉還したるのみならず其子事代主命等百八十餘人をして天孫を守護せしめ天兒屋命、天太玉命、天細女命、石凝姥命、玉屋命、等群神を率て皇孫を輔佐し其子孫は連、首、直、造、等と爲り今に至る迄王室の藩屏たるは即ち克く忠に克く孝に億兆心を一にし世々厥の美を濟せるものなり

爾臣民父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し朋友相信と

谷干城曰く聖上より下し賜ひたる勅語は君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友の關係などを悉く御示し遊はされたれば此大御詔を遵奉して行けば決して道に戻るとはなし

井上圓了曰く第一に孝を論し給へるは孝は人倫の大本なるによるを以てなり兄弟の道も夫婦の道も朋友の道も皆之より分る故に古來孝を以て百行の本となせり父母に續きて親きものは兄弟なり友とは兄弟の間の睦きを云ふ其次は夫婦なり夫婦は實に一家の本なり夫婦和順せされは一家の和合を失ふ次に朋友の間は信を重しとす信とは言行の眞實なるを云ふ以上は一家の人倫に就て詔らせ給へる御辭なり若し廣く世間に對する徳義を擧ぐれば己を守り人に接するに恭儉博愛の諸徳を修めざるべからず恭とは行儀を慎むを云ひ儉とは掬束を義とし身を節制して濫りに費さざるの意を含む之を内にしては恭儉の徳を養ひ之を外にしては博く衆人を愛するは亦道德の本旨なれば此に其事を論し給へるなり抑々我邦の人倫は君臣の義を以て最も重しとし之に次に孝を以てし忠孝一致の大本より兄弟夫婦朋友の道相分るゝに至りたるは實に國體の固有せる一種の特性なれば其後儒教并佛敎の他國より入り來りたるも此忠孝一致の大道に基き大に之を助るととなれり石川義形曰く伊弉諾伊弉册二尊か大日靈尊、月讀尊、素戔嗚尊に勾玉を賜ひ各々其職を授けたると



湯本武比古曰く素盞鳴尊は其子五十猛神を帥めて新羅の國に到り韓郷の島は金銀に富めり若し吾が兒の御する國に船有らずは大に不可ならんとして檜、杉、樟、樟等を植ゑ殊に杉と檜樟とを以て船材に充て給ひしことあり

田口卯吉曰く吾人の祖先は一大飛躍を試みつゝありき彼等は其秀逸なる言語と其特別な巫祝政治と其優秀なる文明とを以て到る處に其土民を同化しつゝありき日本書紀に據るに素盞鳴尊は其子五十猛神を帥ひて新羅に到り曾尸茂利に居玉へり此曾尸茂利は江原道春川府牛頭山たるは我邦史家の夙に注目したりし所なり(建内繁繼の八坂社舊記集録に之を辨せり現今韓國にては之をソイモリと云ふ之に牛頭の二字を適用したるは佛者の附會なるへしと雖も古人の夙にソイモリの地韓國にあることを知りしと明なり)(韓語牛をソシといひ頭をモリと云ふ故に牛頭天王の稱あり佛者の附會と云ふは僻事なり)又尊は韓國の島は金銀あり若し我が兒の知らず國に浮寶(船)あらざらしめは是れ可ならざるなりと宣ひ杉檜樟とを成し玉へり此韓國は即ち現時の慶尙道金海府にして嘗て我が任那日本府の支配せし所なり又尊は熊成峯に居玉へり此熊成峯は忠清道公州即ち熊川の地たる疑ふへからざるなり

利之曰く素盞鳴尊船を造り韓國に往來し彼の草木金石を本國に移植したるは殖民貿易等の始祖にして即ち進て公益を廣めたるものなり  
又曰く沈文煇著の日本神字考に古代の文字として掲載して左の如き譯を附したるものあり而して文煇の曰く按此豊後開鑛所用。出月出日者。日謂金。月謂銀也。と果して然らば我邦神代既に金銀を出したるものならん

出月出日者日謂金月謂銀也

垂之申口出日出月茲日十

常に國憲を重し國法に遵ひ

中村正直曰く東海に儼然として一國を成し上に万世一系の君主あり下に其志奪ふへからざるの臣民ありて成文の憲法こそ近頃發布せられたるなれ我邦不成文の憲法は敢て外より仮りたるもの非らず

利之曰く神武天皇より應神天皇に至る迄十五代の間儒教も佛教も入らされど臣民の一人敢て天位を窺ふ者なく忠孝節義の道の正しきは即ち臣民の國憲を重し國法に遵ふものなり

一旦緩急あれば義勇公に奉し以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし

井上圓了曰く緩急とは緩の字其意味軽くして單に急と云ふか如し公に奉しとは國家の爲めに身を致し力を盡すを云ふ其意一旦危急の變乱あれば我々臣民は忠義を守り勇敢の氣風を奮ひ死生を侵して天下國家の爲めに全力を盡くし以て國體を維持し皇室を保護すへきを云ふなり

利之曰く建御雷命、經津主命の使命を辱しめす尙進んで東國を平定し猿田彦命自から進んで教導の任に當らんとを請へるは即ち義勇公に奉し皇運を扶翼したる模範なり

是の如きは獨り朕か忠良の臣民たるのみならず又以て爾祖先の遺風を顯彰するに足らん  
穗積八束曰く皇室は民衆の宗家日本人種祖先の本系たり太宗世之民衆支族に君臨す政治の便否に依りて設けたるの制度にあらざるべし今若し急激に歐土の法制を以て之を論せんとするか如きあらは失體の極と謂ふべきなり

利之曰く我邦四千餘万の同胞は皆神代より相傳の子孫なれば徒らに外國の風に心醉せず上古祖先の遺訓即ち神道を奉し而して外國の大勢を看破し其是非得失を明にし以て之を取捨を爲すべきものなり是の如くせば即ち王室に忠にして先祖に孝なるものなり

斯の道は實に我か皇祖皇宗の遺訓にして子孫臣民の俱に遵守すべき所之を古今に通して謬らす之を中外に施して悖らす

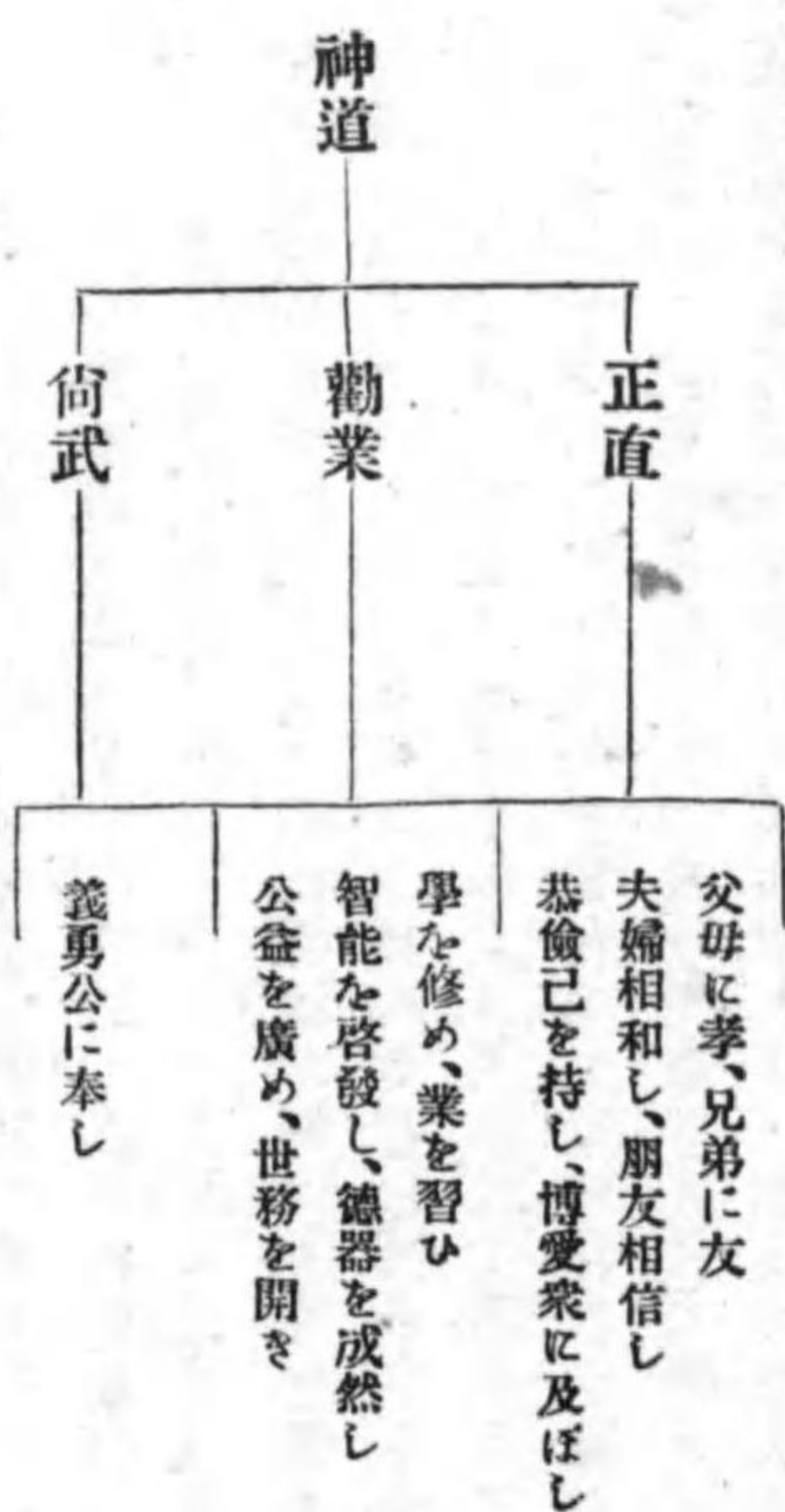
栗田寛曰く皇祖皇宗の遺訓は忠孝大義に外ならず肇國の宏遠と樹徳の深厚とに因て之を古今に通して謬らす之を中外に施して悖らす万國に首出し宇内に超越する大典なれば儒佛及び他宗教により玉へる者にあらざると古史に載する所明瞭的確古今の史乘に炳耀せり

岩下方平曰く我國家開闢の初より道徳の基本既に定まり君臣父子の大義名分に至りては千古不滅なるもの之を祖宗の實訓に徴して歴々たり此大道は宇内に通して悖つす天地に建て、誤らざるものなれば特に我國のみならず博く萬國を統一するに足るべきものなり

井上圓了曰く此一章は世間往々万國共通の道徳を示し給へるもの、如く解釋し皇祖皇宗の遺訓たる忠孝及其他の諸徳は日本に限りて存するにあらず海外万國にも古來齊しく存するものなりと説き來るものあるも余は此一章固より日本特有の道徳を示し給へる所と恐察し奉るなり其故は皇祖皇宗の遺訓たる我邦特殊の絶對的忠の大道は實に美を盡し善を盡したるものにして之を古代に鑑るも將來に考ふるも其美は依然として美に其善はひとしく善にして毫も其道の絶對特殊なる點に於て變ることなきを古今に通して謬らすと詔らせ給ひ又其大道は之を海外萬國に施し行ふに何れの國にても此道を不可として反對する筈なく皆之を尊重するに相違なきことを中外に施して悖らすと詔らせ給へるなり若し中外の一章を通俗に解すれば施すとは當儀むるの義にして我邦の絶對的忠は海外万國何れの國に當儀むるも何等の不都合も差支もなきことを詔らせ給へる所と窺ひ奉るへし換言すれば斯る特別の大道は何れの世何れの國を問はず同等一様に稱揚尊重すべき至善至美の道たることを示し給へるなり

穂積八束曰く吾人の祖先は即ち恐多くも我か天祖なり天祖は國民の始祖にして皇室は國民の宗家

たり父母拜すべし況んや一家の祖先をや一家の祖先拜すべし況んや一國の始祖をや家長の位は祖先の靈位にして皇位は天祖の靈位なり父母は現世に在る祖先なり天皇は現世に在る天祖たり父母に孝たるべき所由は即ち皇室に忠なるべき所由にして之を一貫するの國教は祖先の崇拜なり此大義は吾人の祖先の國家を成したる基礎にして吾人か之を永遠に維持するの軌道たる者なり  
利之曰く皇祖皇宗の遺訓は即ち神道にして正直勸業尙武の三なり敬神忠孝は此正直の中に在り此道は古今一轍にして万國廣しと雖も此道の外に於て求むべきものなし今勅語の箇條を神道に配すれば左の如し



國憲を重し國法に従ひの二條は右三項に共通すべし

朕爾臣民と俱に拳々服膺して成其徳を一にせんことを庶幾ふ

井上圓了曰く拳々とは捧げ持つを義とし服膺とは胸に着くるを義とす故に其意皇祖皇宗の御遺訓を大切に守り暫く身を離さざる様に持つを云ふなり是れ天皇陛下の深く祖宗の御遺訓に御心を注

かせ給ひ億兆の臣民と共々に心を一にし力を合せて此道を守り以て祖宗に對せんことを期し給へる懇切の御聖諭なり嗚呼我々臣民は何ぞ此御聖諭に對して日夜謹み慎て遵守することを思はざるべけんや

芳川顯正曰く維新以還學藝競ひ起り處として學校なきは無し人として冊を挾まざるは無し人文の開けたると蓋し前古未だ曾て聞かざる所なり是を以て青年子弟各々斐然として章を成し大に觀るへき者ありと雖も然れども其德行に於ては甚だ遜焉たる者あり愛國の士は慨歎して措かず此れ我が天皇陛下の軫念して此勅語を下し給ふ所以なり蓋し道德の國家に於けるは蓋の肉に於けるか如く蓋あれば肉は則其質を保つ道德微せば則民其生を全するを得ず乃ち道德は國を持するの蓋なることを知る嗚呼世の子弟たる者豈一日も德行を修めざるべけんや

重野安釋曰く中古以來世運漸く移り政權武門に歸せりと雖も忠孝彝倫の標準に至ては毫も變せしとなし明治の中興は開關以來未曾有の大業を起させ給ふとゆへ時勢を斟酌し凡百の制度典章を汎く西洋諸國に取せらる是に於て人々新奇を競ふの餘り忠孝彝倫の道も陳腐なりとし蔑如廢棄するの傾きあり抑々忠孝彝倫の道は本邦固有の美德にして皇運と共に萬々世を閱て變ずべからざる者なり若し此道を廢したらんには智巧に進み技藝に長すと雖も禽獸蠻夷の習を免るべからず是れ蓋し聖上の深く慮を軫し此勅を下し給ふ所以なり

井上哲次郎曰く今世界列國の情狀を大觀すれば歐米諸國は勿論其他歐洲人の往きて國を成す所皆旺盛を致さるなく而して之と進歩を競ふに足るもの唯々東洋諸國あるのみ然るに印度、埃及、緬甸、安南等は已に獨立を失ひ暹羅、西藏、朝鮮等の諸國は極めて微弱にして獨立を成すと甚だ難からん然れば今日東洋に在て屹然獨立し權利を列國の間に争ふものは唯々日本と支那とあるのみ然れども支那は古典に拘泥し進歩の氣象に乏し獨り日本は進歩の念日に月に興り方法如何に因ては驚

くべき文華を將來に期するを得べきなり然るに日本は蕞爾たる一小國にして方に各國呑噬を恣にするの秋なれば四方皆敵なりと思はざるべからず居恒に務めて列國と親和の交際をなさざるべからずと雖も一旦外虜の我隙を窺ふとあるに當りては頼むべき者外にある無し唯々我が四千餘万の同胞あるのみ然れば苟も我邦人たるもの國家の爲めには一命を塵芥の如く輕んし奮進勇往以て之を棄つるの公義心なかるべからず然れども此の如き精神は不慮の事なきに先ちて之を鼓舞せざるへからず盜を見て始めて繩なは、誰か其愚を笑はざらんや蓋し勅語の主意は孝悌忠信の德行を修めて國家の基礎を固くし共同愛國の義心を培養して不虞の變に備ふるにあり我が邦人たる者盡く此に由て身を立つるに至らば民心の結合豈に期し難からんや凡そ國の強弱は主として民心の結合如何に因る苟も民心結合せざらんか城皆艦艦も恃むに足らず苟も民心結合せんか百萬の勁敵も亦我國を如何ともすると能はず然れば勅語の主意に因て民心を結合するの切なる未だ今日の如きはあらざるなり

利之曰く教育勅語の一たひ下るや儒者は私して曰く忠孝は孔孟の教に因れりと佛者は私して曰く博愛は釋迦の教に因れりと何れも偏頗の説にして忠孝博愛の道は我邦に儒佛の未だ入らざる前より俱に存するものなり應神天皇以來彼の長を取り我が短を補ひしとあれば決して儒佛の教與つて力なしとは曰はされど儒者佛者の説く如く盡く彼れに取りしものにあらず故に余は儒佛の未だ入らざる時代の事を擧げて以て此勅語を解釋するものなり

下篇終

●正誤 姓名二頁十三行と十四行の間「神田孝平、正二位學士會院會員」の十四字を脱す目錄四頁六行目の「道」ハ「教」姓名七頁五行の「二」は「次」十行目の「鈴」は「高」上篇四十八頁九行目の「露」は「霧」同四十四頁十五行目の「謂子」は「謂ふ」中篇八頁五行目の「威陵」は「後威」三十頁二行目の「現育」は「現理」の誤なり



97  
17  
114

本書著述の緣起

著者識

從三位文學博士川田剛先生我か先人の遺書に序して曰く石川伯方少にして江戸に遊ひ水戸藤田東湖先生の獄中作の正氣歌を讀み其風を欽慕し贊を執り業を受け力學累年遍く史傳を閲し其の言行の綱常に裨益ある者を輯録し每章附するに先儒の論説を以てし名けて資行傳と曰ふ往時源烈公名教の衰頽を病み明倫歌集を撰ふ今伯方の意を用ふる此と相類す則號して藤田氏の學に負かすと曰ふも亦可なりと

正四位文學博士中村正直先生も序して曰く石川伯方君著す所の資行傳は本邦古今人の善行偉績を輯録し分て九類と爲す其中慈親仁君義夫良兄の四類は余最も之を躋と爲す蓋し漢土固より人に孝悌を勸むる善書に乏しからず我邦亦孝義錄明治孝節錄等ありて其臣子婦弟を奨勵して其義務を盡さしむる所の者固より已に備はれり其君父夫兄に併及はして其仁慈義良を勸むる此書の如き者は則世に未だ多く有らざるなりと

從四位南摩綱紀先生も序して曰く資行傳は本邦古今の忠孝節義の行事を上は天子より下は庶人に至るまで遍く採り廣く記し間に評論を挿み讀者をして感奮興

起せしむ明治中興に至る及び政教一新百度維れ舉ぐ頃ろ皇后特に侍臣に命して明治孝節録を選はしむ其心を用ふる至れりと謂ふ可し而して伯方は是より先き十數年既に此著あり殆ど符を合するか如し亦偉ならず哉伯方は中興後時事を建白し未だ報せられずして歿す後皆其言の如くす吁伯方をして今日に在らしめは必ず應に大に伸ふる所あるへし今は則亡し惜かな然りと雖も此着孝節録と世に並ひ行はれ讀者感奮興起して皆善く忠孝節義の人と爲らば其政教に裨益あること豈に尠ならん哉と

正三位文學博士西村茂樹先生は評して曰く資行傳は我國の倫理を明にするに最も善き書なり此の如き書を教科書と爲したしと

以上の如く先人の學は水戸風にして和漢を兼ね其學と識とを推知すへし殊に先人は神道を崇ひ勤王の志深く嘗て水戸に至り烈公か天保年間山陵修覆の事を幕府に建議せしも用ひられざるを東湖先生に聞き慨然として宇都宮藩の間瀬和三郎縣勇記岡田眞吾等に山陵修覆の事を勧めたり和三郎は後に戸田大和守と稱し山陵奉行と爲るも其實は先人之か首唱たるに因る抑々先人の山陵を修めんとするに意ありしは蓋し三の原因あるとにて第一は我か石川家は清和天皇の後胤

鎮守府將軍源義家の孫河内國石川郡一口城主武藏權守義基の後裔なれば王室に盡すは即ち報本反始の義なり第二は我か曾祖父吉永の妹は彼の山陵志を著したる蒲生君平の師鈴木石橋の妻なり因て君平は屢々我か家に來り曾祖父は君平を子の如く愛し後君平の山陵を調ふる時金若干を與へて其志を成さしむ故に君平より曾祖父に宛て山陵費の補助を得たる書狀と我か五代祖吉里か王室の御經濟の御不如意なることを聞くと時勢か草莽の臣にして金圓を献納することを許さるを以て黄金の硯を造り竊に公家に就きて献納したることあるを聞き君平は深く其意に感じ

黄金もてつくる墨池淺くともつくれる人の心深けれ

どの一首を咏し吉永に示したるもの今尙存せり第三は我が七代祖吉久の妻は島田權兵衛の女にして其實兄伊織は幕府の麾下土屋相摸守の臣堀内五郎左衛門の養子と爲り堀内源太左衛門政重と稱し江戸小日向諏訪町に道場を開き擊劔の師範を爲し後に神田紺屋町に住す赤穂の義士堀部安兵衛と柳澤家の臣細井知愼(維新後從四位を贈らる)は其門人なり義士等復讐の前夜大石良雄堀部安兵衛細井知愼等源太左衛門の許に會し源太左衛門は遂に義士等と共に吉良義央の邸を襲ひ翌曉安兵衛は

宿志の遂げたるを、知愼に報じれば、知愼は袴を着るに暇なく、跣にして、義士等の泉岳寺に赴く途中に會したるとは、先哲叢談に詳なり。知愼は吉久とも懇親にして、嘗て其主柳澤吉保に勸め、山陵八十餘所を修復したるとあり。先人常に此事を聞き及べり。故に先人は熱心に山陵修復の事を説き、且尊王愛國の義を唱へ、後烈公の眞意と外國奉行柴田日向守の説とを聞き、大に戒心する所あり。日向守は貞太郎と稱し、先人と共に松平愼齋先生（重野安禪、秋月胤永及び眞太郎弟、永持孝次郎等の師）の塾に學ひし人なり。是に於て先人水戸に至り、桑谷己之太郎、長谷善四郎に就き、西洋式の大砲、三門小銃、三十挺を製造し、民兵を組織して、壬生藩の仁木猪十郎を招き、銃砲の術を民兵に傳習せしむ。又烈公が神道を崇ひ、贊天堂を建て、大己貴尊と少彦名命とを祀り、醫藥を製して民間に施したるを以て、先人も東湖先生に乞へ、其方を受けて、其藥を製し、神救丸と命け之を配下の民間に施したるとあり。又之と同時に、先人は其友下總佐倉藩の儒臣續豊徳を介し、佐藤尙中に牛痘の種を請ふて、民間に施したり。是れ下野に於ける種痘の嚆矢なり。其後東湖先生の三男藤田小四郎か、武田耕雲齋等と、故烈公の遺志と稱し、藩を脱し、兵を擧げて、下野の太平山に據る。我が家太平山に近きを以て、屢々相往來したるのみならず、武田等の筑波山に在る時、先人は從弟川連小一郎（維新後追實を蒙り、靖國神社に合祀せらる）

の浪士中に在るに因て、竊に金穀を贈りたるを以て罪を得、土藏八戸前に封印を施され、邸宅土地等と共に沒收せられ、同時に閩族十餘人は故郷を放逐せらる。是に於て家族等江戸に到り着したる、其夜火災に罹り、僅に持來りたる財産は盡く、烏有に歸す。此時東湖先生の門人にて先人の親友原市之進（維新後從四、位を贈らる）は其門人綿引泰（前學習院教授）をして、米若干を齎來り、且本所北割下水に在る己の邸に住せしむ。我一族は火災に罹りたる、其夜一時母の生家小菅家（幕府の麾下中小菅の姓は本分共三家の外祖父小菅善左衛門は弓術の師範を爲し、勝安芳等の師なり）に至る。此時我が家三百餘年傳來の大黒天か小菅家に在て不思議なることありたり。故に余の神道を尊ひ、大國主尊を信するは一朝一夕にあらず。且先人の遺誠もあるも、余は不肖にして、其遺誠を實行すること能はされど、心には一日も忘れされば、淺陋を顧みず。我が同胞四千餘萬の本つく所を知らしめんには、神代の事蹟を詳にし、祖宗の遺徳を明かにするに若くはなしと思ひ、凡そ十二年間五千六百五十八部の書に就き、我太古の事蹟と之に環連せる歴史等を研究し、以て此書を著はしたるものなれば、決して偶然にあらざるなり。又先人は維新前に國事に盡したるのみならず、維新後にも水戸藩公議人杉浦金次郎に因て、彈正臺に建白し、巡查を全國に置かんとを乞ひ、又久保田讓（現今の文部大臣）に因て、日光縣に建白し、其縣治を朽木に移し、及び通船開墾等の

事を以てす此時讓は左の一首を先人に贈られたり

國の爲め君の爲めに、諸共に、永く盡さんまこと心を、

此時又戸田忠至(前山陵奉行大和守事此時は宮内大丞なり)か先人に贈りたる書狀の中に左の文あり大に我心を獲たる所あるを以て爰に其全文(福羽美靜、深簡、德等、共同して起草したる文の由)を掲ぐ

天神造化の初宇内を念視し萬古を洞達し以て我皇統を定め玉ふ天孫降臨より今に數千歳人世久しきを歴と雖天神よりして之を觀る未だ央ならざるのみ今や海外萬國と交際相親み文明の運日に新に月に昌なり此人力の所爲耶抑亦天神冥々の中に贊助して以て然らしむる所耶竊惟天神の世界を鑄造し玉ふ古傳の我に存する有り今開化の彼より漸くするを視る乃其實験の証ふ可からざるを知れり夫れ神明の徳固より一視同仁にして全地球のもの其冥護の恩に沐浴する彼我の別あることなきなり然は則我神明を崇奉すること亦萬國と共にするにあらずんは焉そ天神の幽契に應ずるを得んや今より宜しく勉めて固陋を去り知見を擴充し造化主宰の心を以て心とし益々神明の徳輝を盛大にし海外をして普く我皇統の無窮を瞻仰せしむへし苟も如斯なれば古傳の我に存する所と開化の彼より漸くすれ所と兩なから相悖らす而して既往を將來に測る管

に數千歳の久しきなるのみならず將來の今日を視る猶今日の既往を視るか如く古傳の未曾有に聞け氣運の極盛に抵る又其如何を知る可からざるなり今竊に余等所見を録し以て之を大方の識者に問はんと欲す識者以て余等の愚見を擴充せば則幸甚

明治卅六年十二月二日上卷印刷同年同月六日發行（著作權登錄濟）  
明治卅七年十一月廿三日下卷印刷同年同月廿六日發行  
明治卅八年三月廿六日上下合本再版發行

實價金七十五錢

著者 石川利之

神田區西小川町二丁目十一番地

發行者 石川武之

神田區猿樂町二番地

印刷者 大塚重貴

神田區西小川町二丁目十一番地

發行所 日本太古史發行所



不許  
複製

終